



王都陥落  
総集編 ①  
(第1章、第3章)



フルカラー 全177ページ

18禁



王都陷落 [第1章]

The background is a dark, atmospheric night scene. In the center, the silhouette of a castle or fortress is visible against a slightly lighter, reddish-brown glow. The sky is filled with numerous small, bright, golden-yellow sparks or embers falling from above, creating a sense of fire or destruction. The overall mood is somber and dramatic.

王都陷落



ああっ...

はうっ...



これがランターナで一番と言う女カッ...  
なかなか悪くないぞ！



やっ！これでっ...

うっ！

やっ！

ふう... これで  
メルシアへの道が開いたな



ランターナの女で十分ですけどねえ

パンツ

パンツ

あぁっ

アッ!



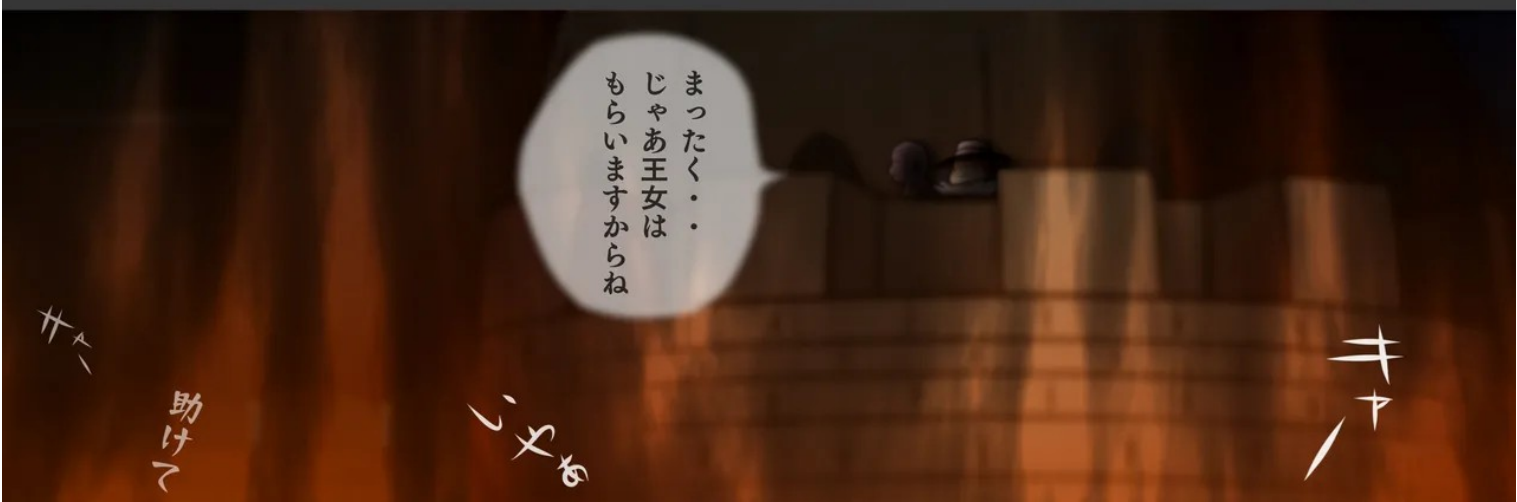
その王妃の具合も  
味わってみて下さいよ

ハア...

イ...あ...

ハア...

あんな女に用は無い  
早くメルシアの王妃と...  
すぐに向かうぞ!



まったく...  
じゃあ女王は  
もらいますからね

キヤ

じやね

助けて

サッ

メルシア王国



バルダン国の侵攻が止まりません  
カナ国に続き、ランターナ帝国も  
先日首都が陥落したとのこと

なんと・・・  
あの屈強なランターナ帝国が  
落ちたというのか

勝ち目があるのか？  
バルダンの情報はもうないのか


バルダン人ではない異様な人間が  
軍の中にいたと、情報が・・・

急いで軍議を開き  
こちらから打って出るべきだ！


どこか他国と同盟を？

一体どうなっている・・・小国のバルダン国が何故急に

もう一度バルダンと交渉をっ



王妃、何度か交渉の者を  
送っておりますが・  
誰一人戻ってきてはおりません



我が国は昨年王が亡くなられ  
軍力が低下しております  
・・なんとか戦争は避けるべきかと



・・交渉はやはり無理ですか



去年は  
王女エルナ様との結婚、  
王妃様の再婚を同時に  
持ちかけてきた野蛮な国です

また先日の争いでは  
奴らの中に灰色の肌をした  
不気味な部族もいたと・・・  
話を通じる相手ではありません



・・・何か嫌な予感がします  
すぐに同盟国のラミッド国へ  
救援の使いを

お二人もラミッドへ  
避難すべきです

ラミッド国の救援を待つ間  
皆で力を合わせ  
この城と国を守るのです

マトイ、  
皆を置いていくなど  
出来ませんよ

でも、  
奴らはもう隣の国まで来てます！  
ラミッドの助けには時間が・・・

マトイ・・・



嫌な予感がっ・・・  
・・・するんです

マトイよ  
心配なのは分かるが  
王妃様を困らせんでくれ

王妃、・・・城を出るのは危険です  
今はこの国が  
バルダンと繋がっているか  
分かりませぬ

ラミッド国への使いは  
すぐに私が送りますゆえ  
なにとぞこの城に留まり下され

我ら皆、命をかけて、  
お二人とこの国を  
お守りいたします

ゲホッ

おまかせ下さい

心配はいりませぬ  
城壁は高く、堅く、侵入など不可能

アリシア隊長率いる紫騎士団は  
この周辺で敵うもの無し

それにアマゾネス部族である2隊長・・・  
あそこにいるマトイと  
デアンナがおります

ぬお!  
デアンナまで勝手に入って来よってっ

ロンじいは  
なんも出来ないんだから  
寝てろよ・・・

まったく、  
お前たちは王妃が大好きだからな  
・・・王妃  
ここが一番、安全なのです  
皆、一緒です。  
愛するこの国を全員で守りましょう




分かりました・・

なんとか戦争は避けたいのですが・・  
門を堅く閉ざし  
城の守りをより固くするのです



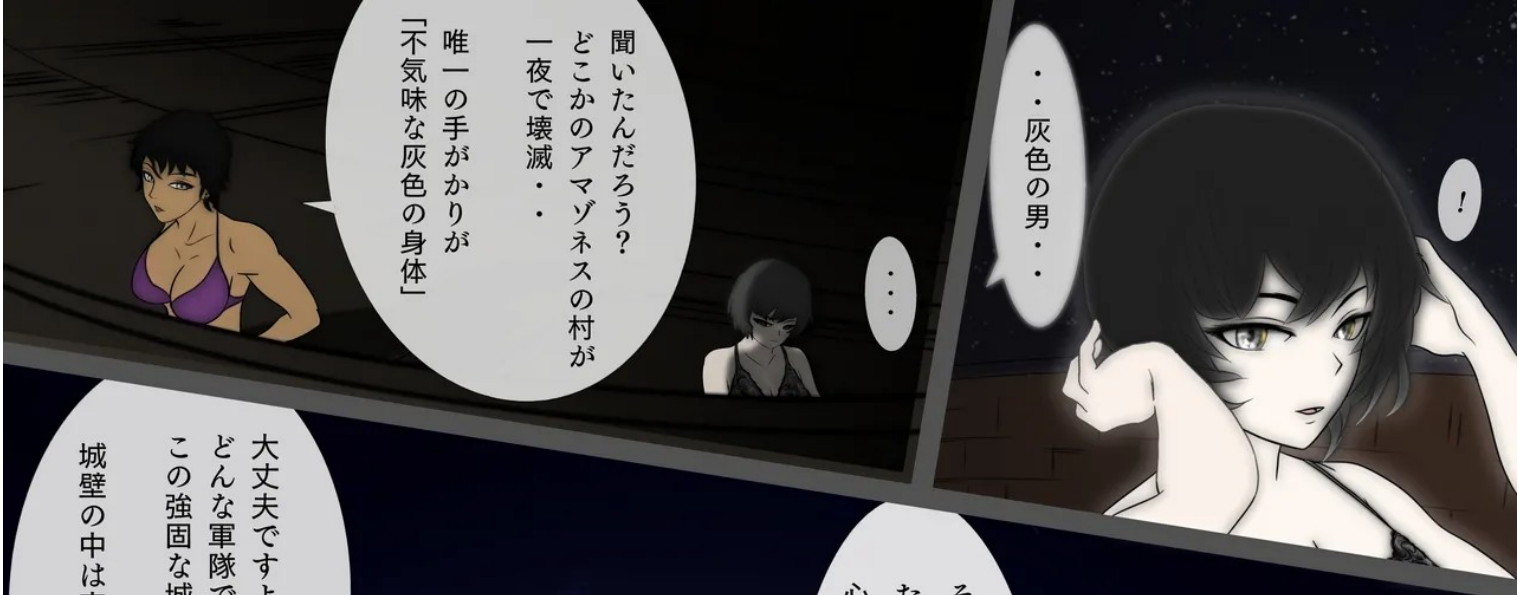
どうしたマトイ  
逃げるなんて らしくないな

どんな相手だろうが  
返り討ちだろう



まあ、細かい戦略は  
ロンじいやアリスアに任せて  
もう寝ようぜ

・・・

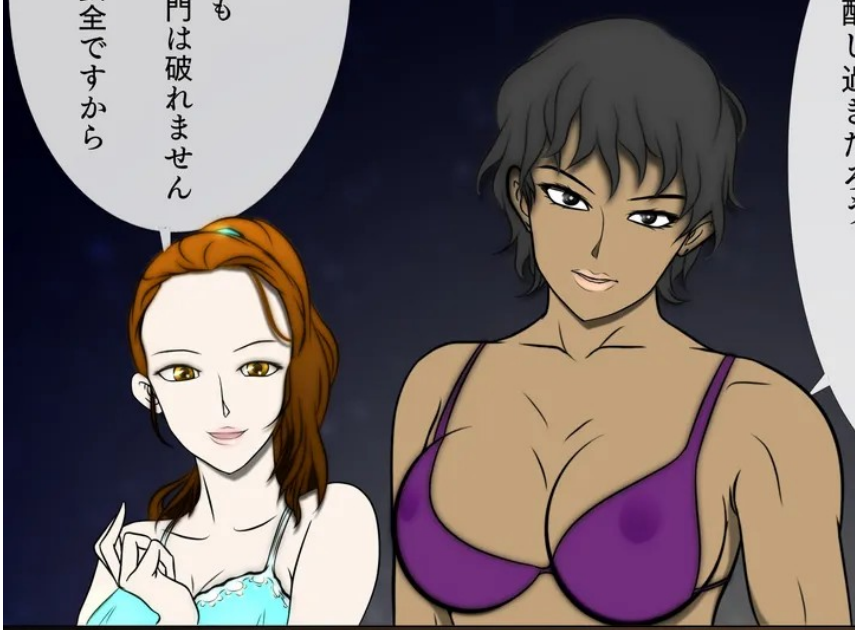


聞いたんだろう？  
どこかのアマゾネスの村が  
一夜で壊滅・  
唯一の手がかりが  
「不気味な灰色の身体」



・・灰色の男・・

大丈夫ですよ  
どんな軍隊でも  
この強固な城門は破れません  
城壁の中は安全ですから



そいつらが襲ってきていると？  
ただの噂話だ・・  
心配し過ぎだろう



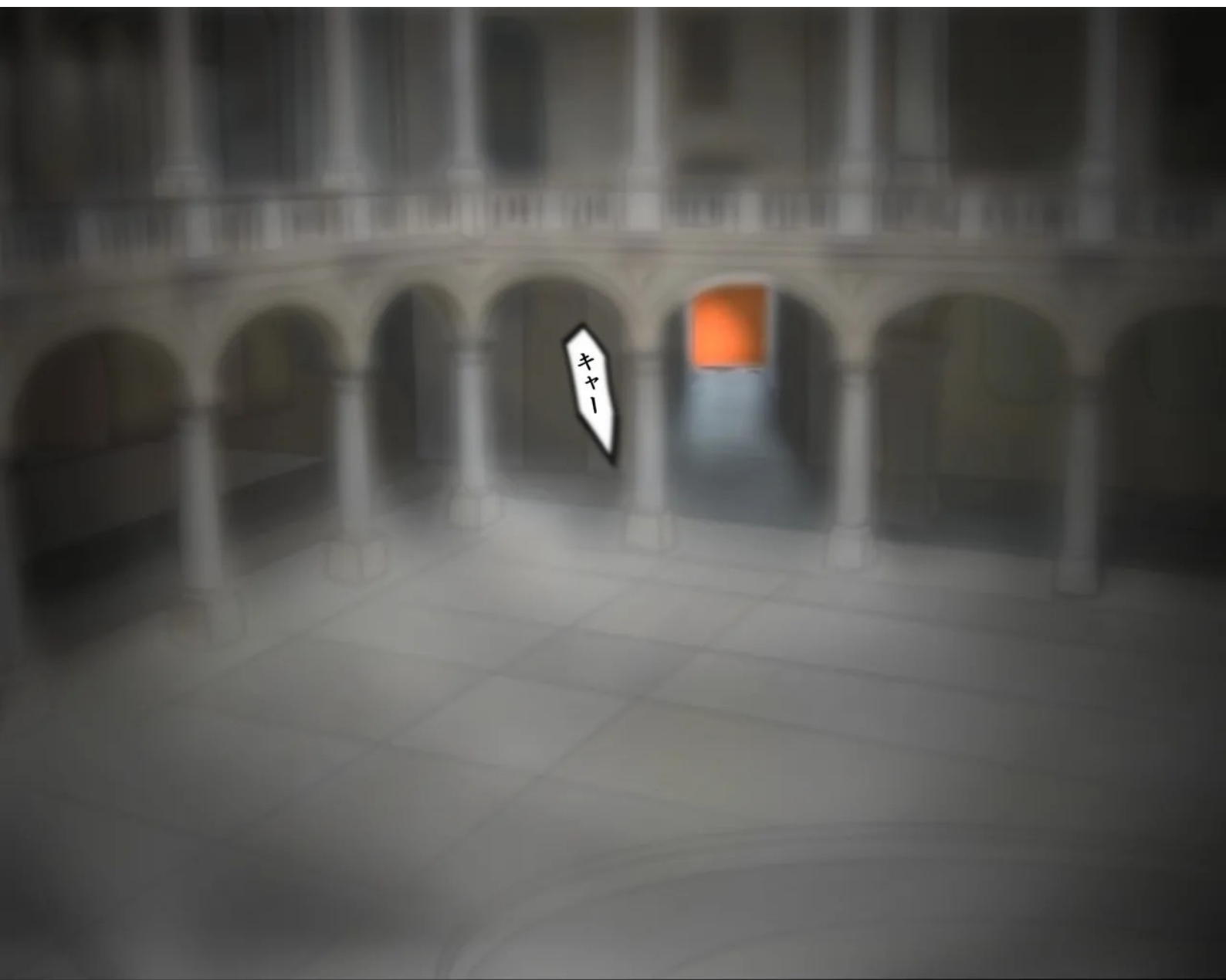
・・・  
城で守ると決まった以上、  
どんな奴らだろうと  
向かってくる奴は切り刻む



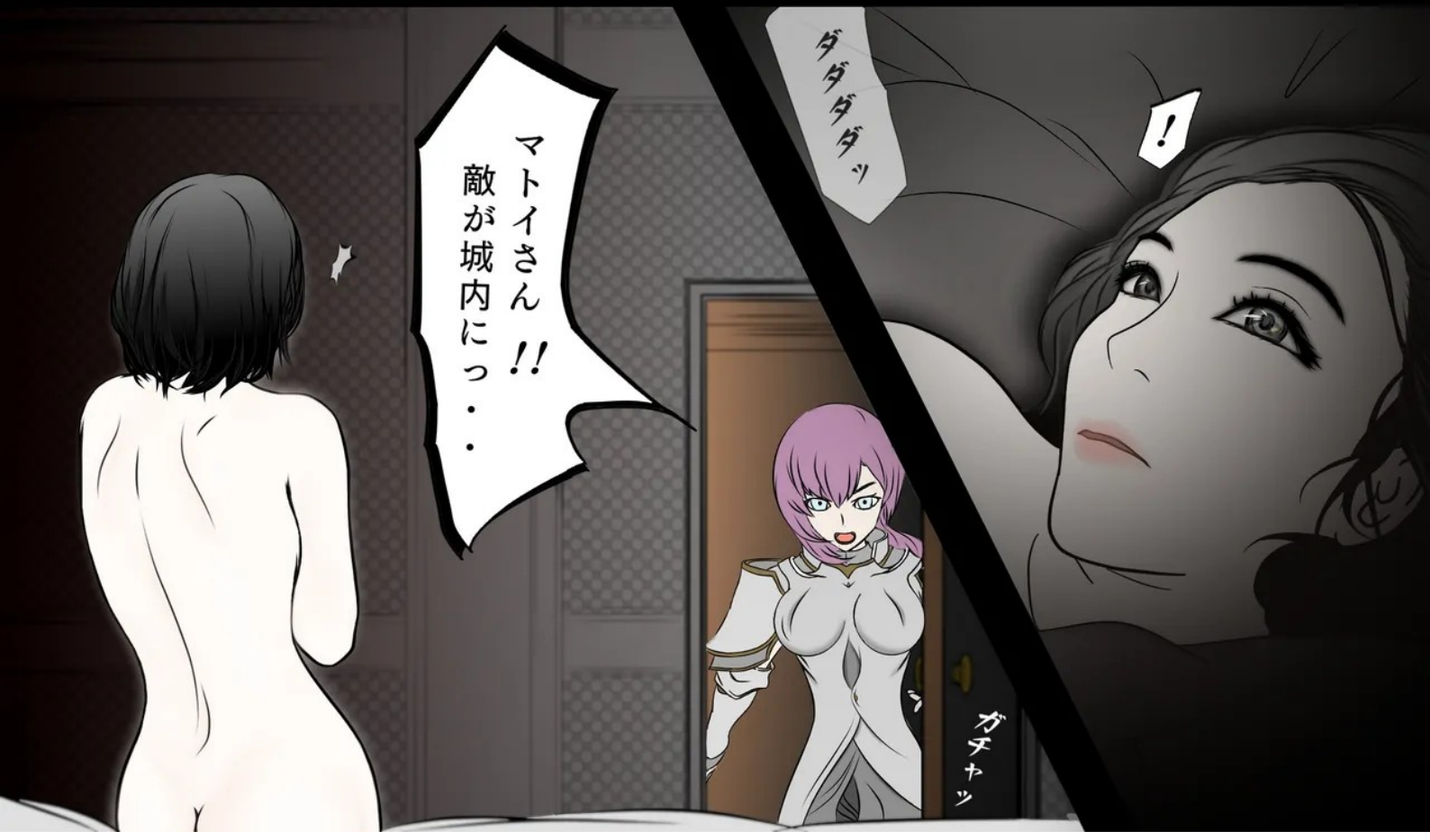
ギギギ...



ギギギギ...



キヤー



マトイさん!!  
敵が城内にっ...

ダダダダッ

ガチャッ

!

どうやって城壁内に侵入を!?

分かりません・・・  
北側の小門からのようです

アリシア隊長は  
すでに戦場で騎士団の指揮を

絶対に王宮に近づけるな!



おかしい・・・  
こんなに簡単に  
城内に入られるとは・・・

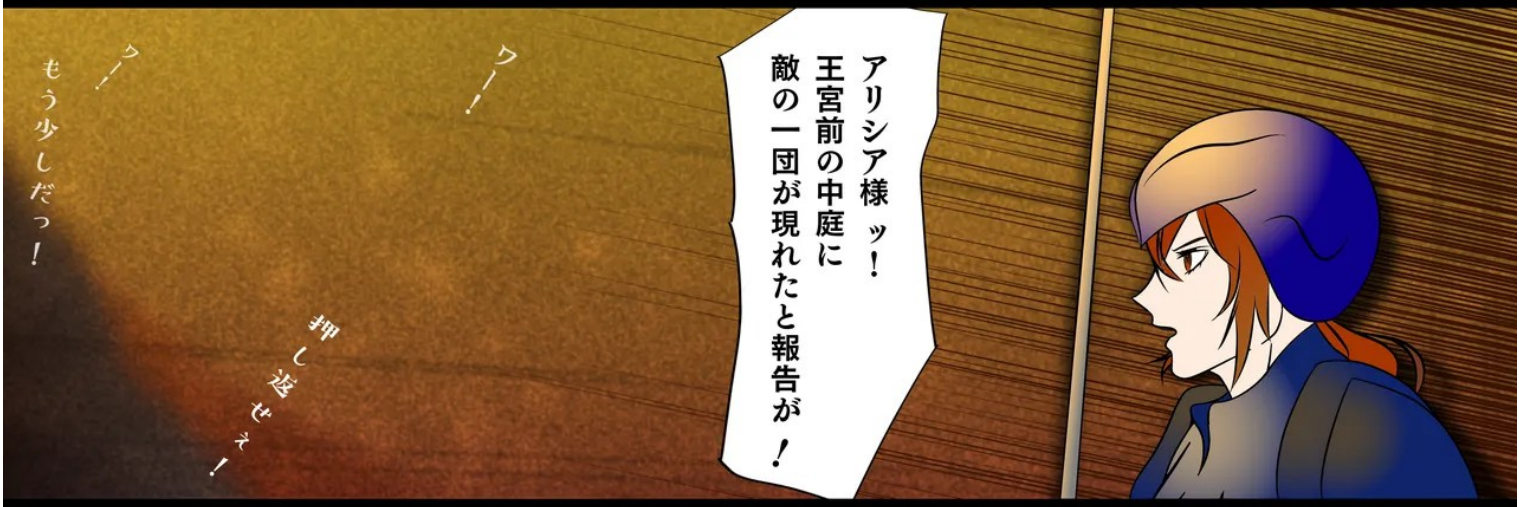
ハッ！

すぐに王宮へ向かう！



・・・

こつちだ。  
王妃と王女は  
この先の王宮の2階に居る



アリシア様ッ！  
王宮前の中庭に  
敵の一団が現れたと報告が！

もう少しだっ！

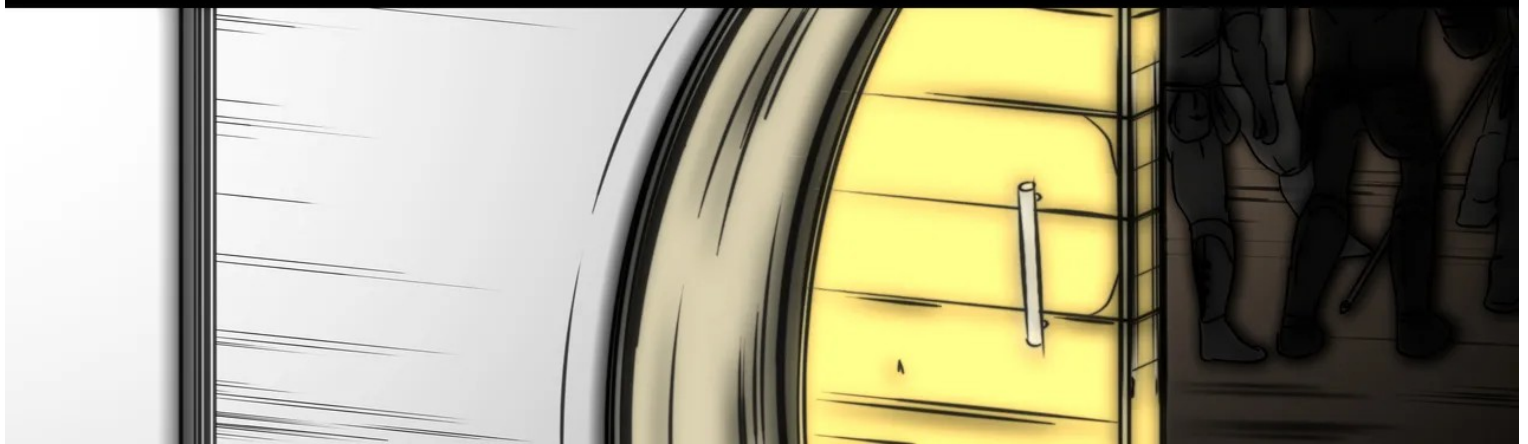
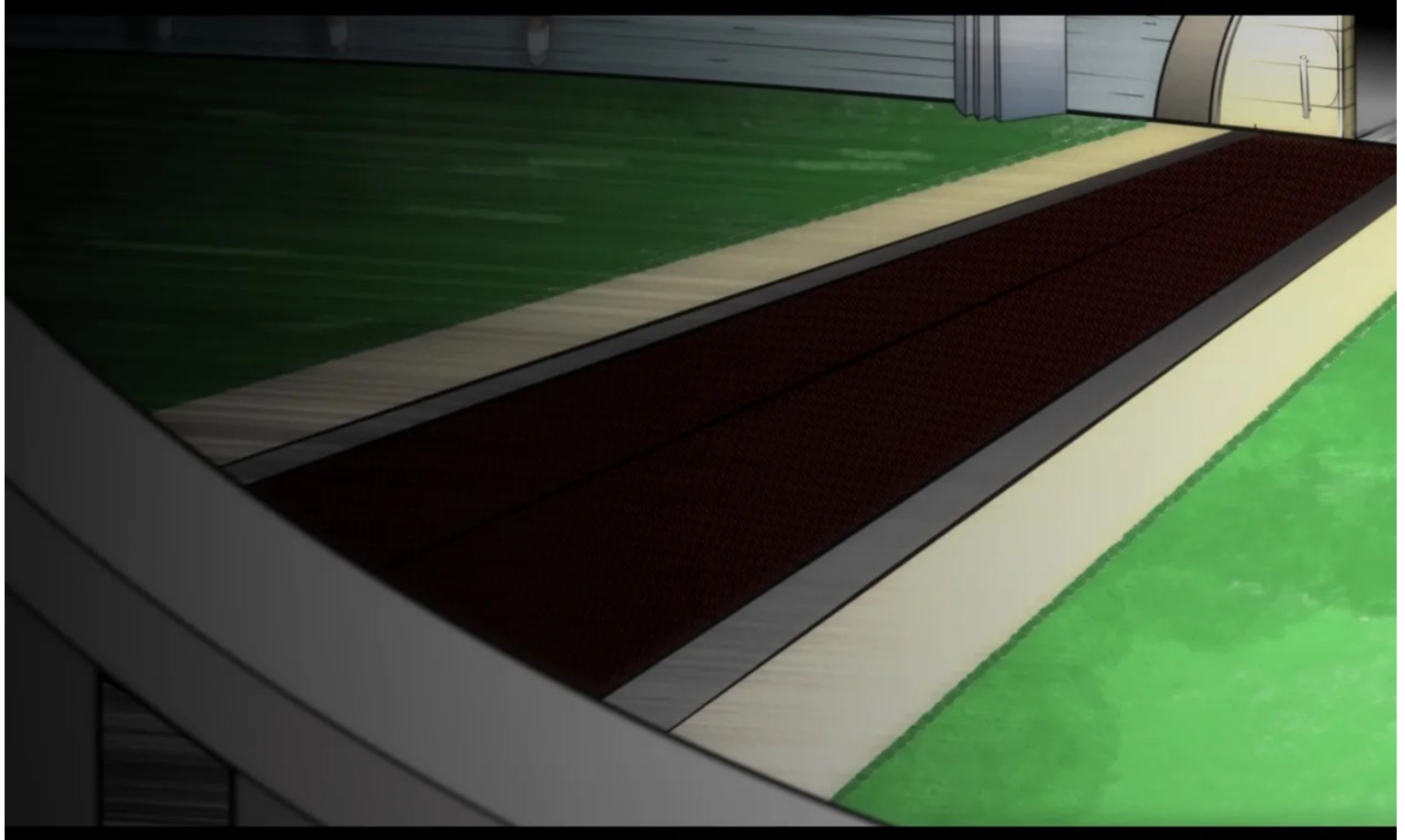
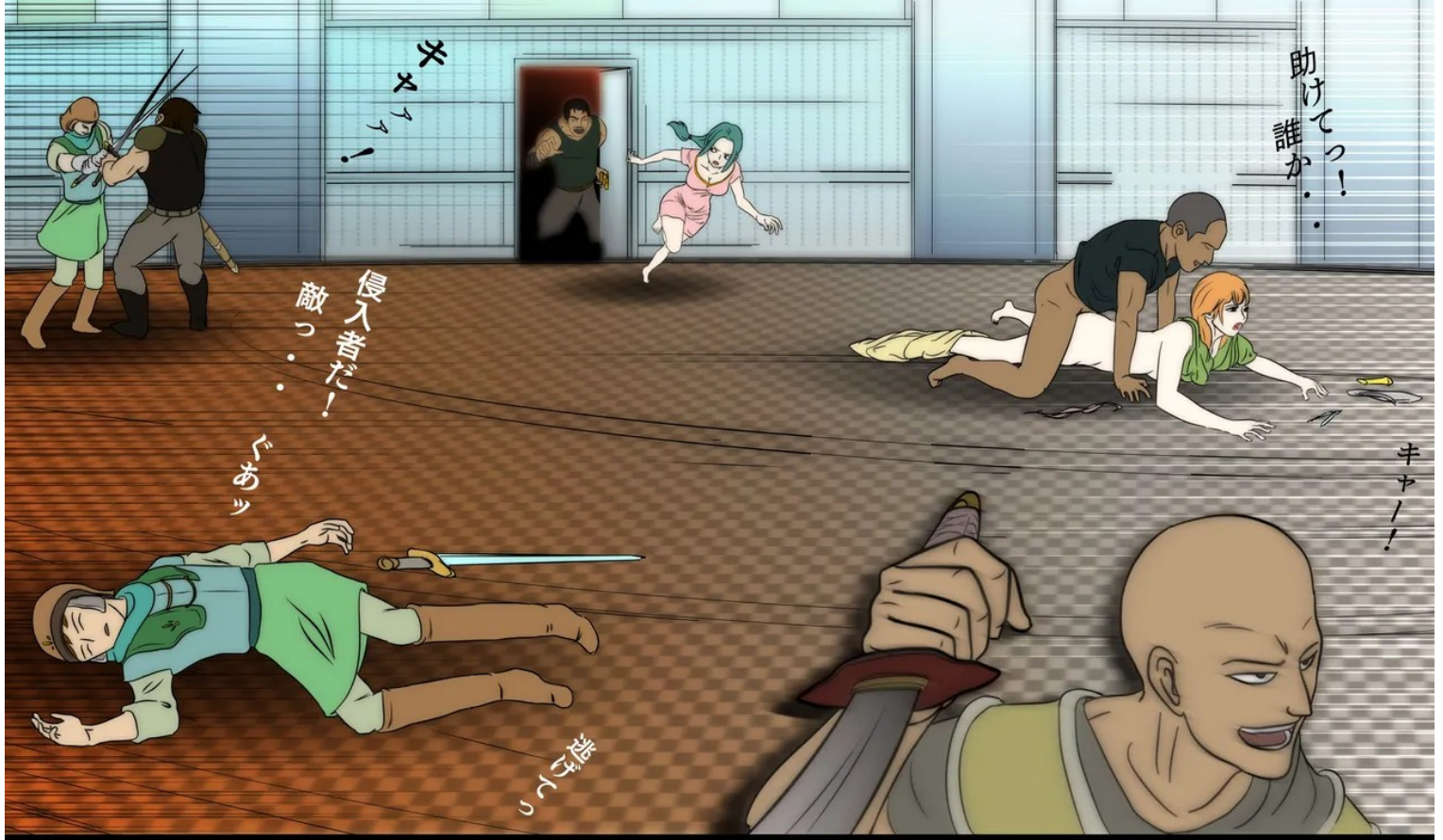
押し返せええ！



なっ！？


どうして！？  
どうやって・・・

ここを頼みます。  
私は王宮へ！




バ  
グ  
ツ






どうやってここまで・  
各出入り口の門は  
まだ交戦中のはずなのに

この王宮内に侵入を許すとはね・  
それに軍隊でもない、  
こんなただの蛮族どもを



2階へは絶対に行かせないっ  
ここで終わりにしましょう



こんな奴ら  
全員なぎ倒してやる

王妃を守るぞ



お急ぎ下さい・・・

地下道からつながる川を下り、  
同盟国ラミッドの国境に入れば  
大丈夫です

まさか  
このようなことに・・・

ローズ、マリル・・・  
やはり二人も一緒につ・・・

・・・王妃、  
すぐ下の広間にまで  
敵に侵入されています。  
考えている時間はありません。  
我々は下の加勢に向かいます。  
・・・どうかお早く

ラミッドから  
必ず援軍を連れてきます。  
どうか生きていて下さい・・・

護衛長でありながら  
ご一緒出来ず申し訳ありません。  
小舟のところで  
部下がお待ちしております。  
・・・また後でお会いしましょう

ボタンッ

1階は隊長達が  
交戦中とのこと  
ローズ護衛長、  
急ぎましょうっ

いや・・・下には行かない

えっ  
!?  
・・・何故です??

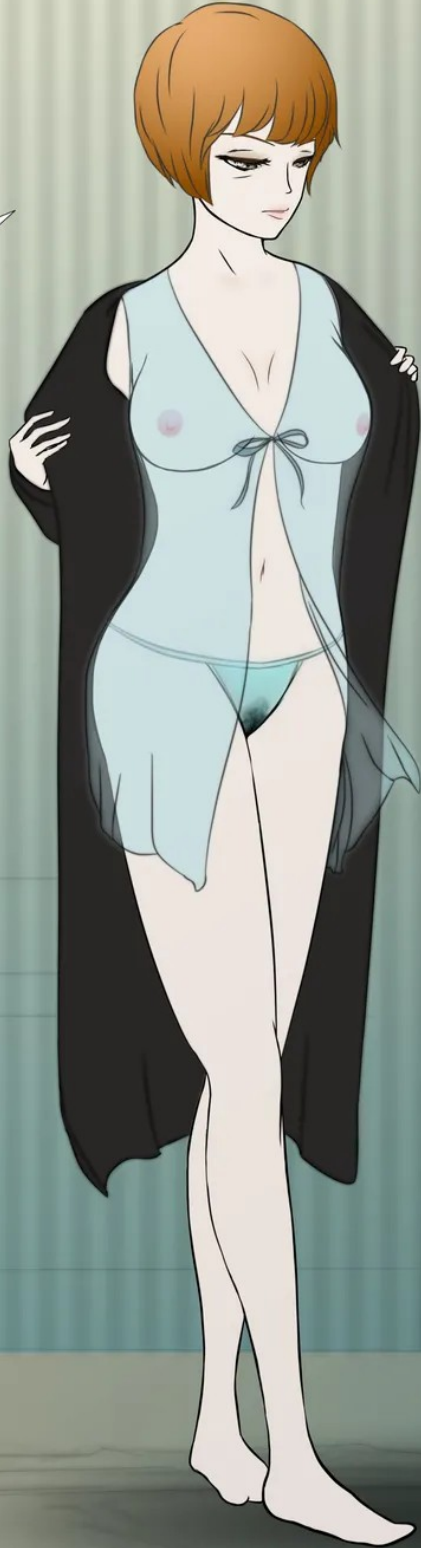
マリル、  
お前を呼んだのには理由がある。  
・・・王女エルナ様の服に  
着替えるんだ。  
髪型も化粧も出来るだけ似せろ  
王妃達の顔をよく知らないはず・・・  
王妃は、私が演じる

!!

万が一王室まで侵入されて  
王妃・王女がいなければ  
すぐ抜け道からの脱出がバレてしまう

だから我々を2人だと思わせて  
少しでも時間を稼ぐ

心得ました





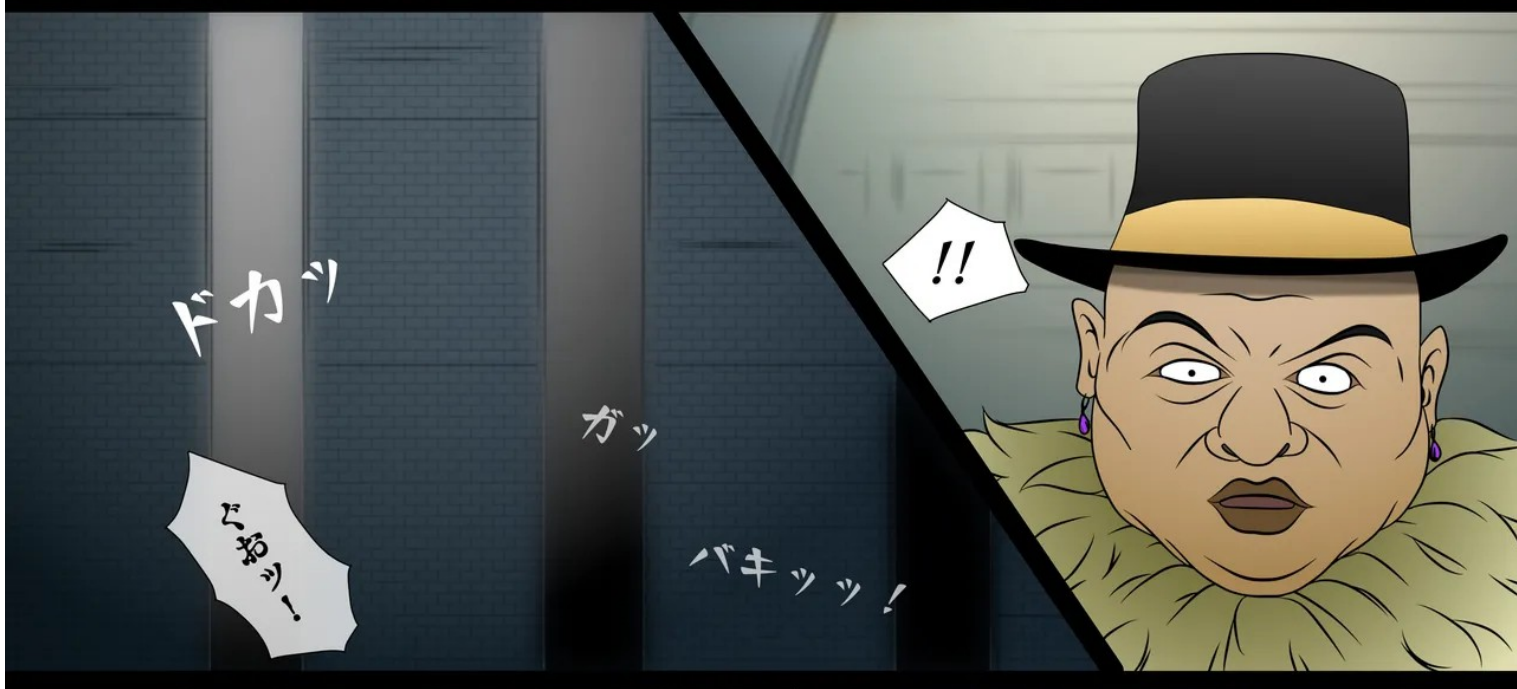
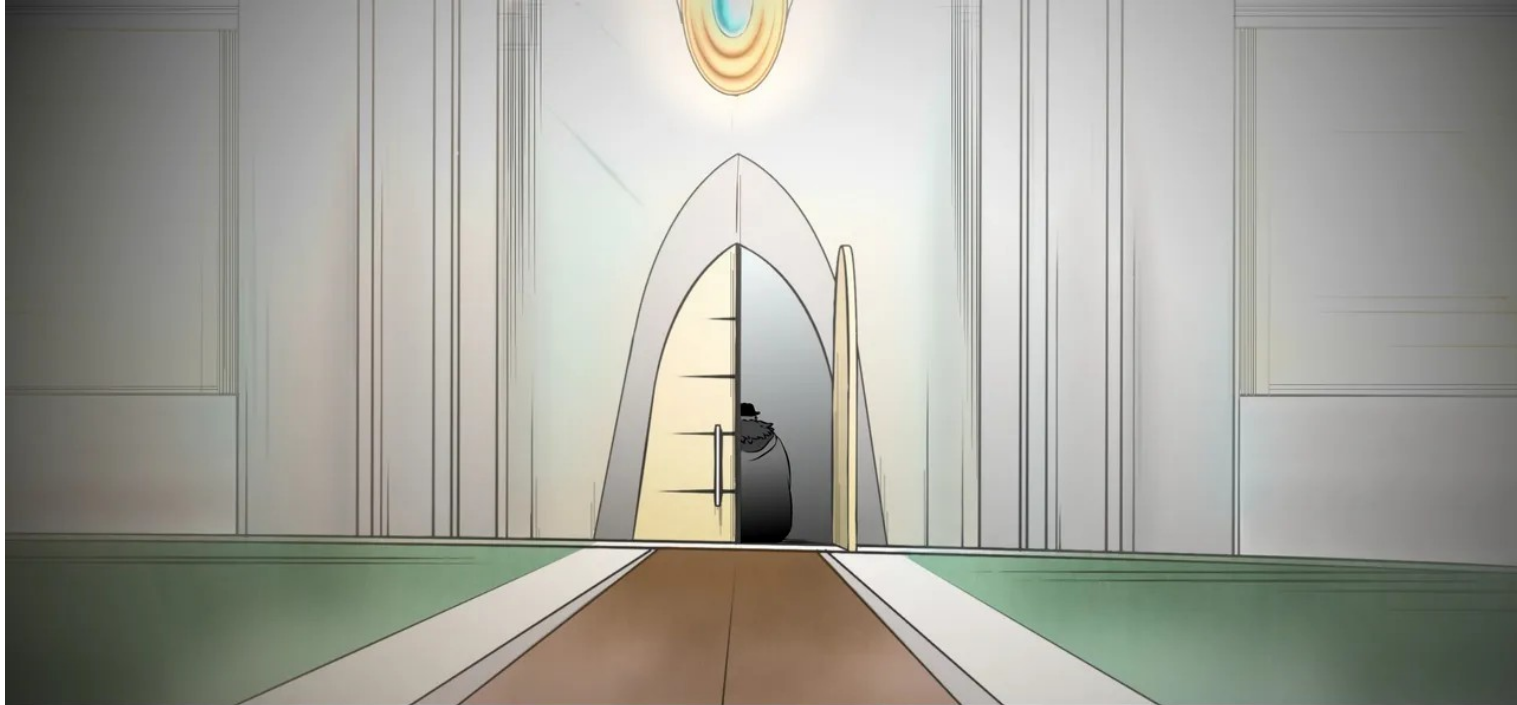
ここか、王以外、  
女しか入れぬという王宮は・・・  
なんと素晴らしい。  
甘美な匂いがブンブンするわ

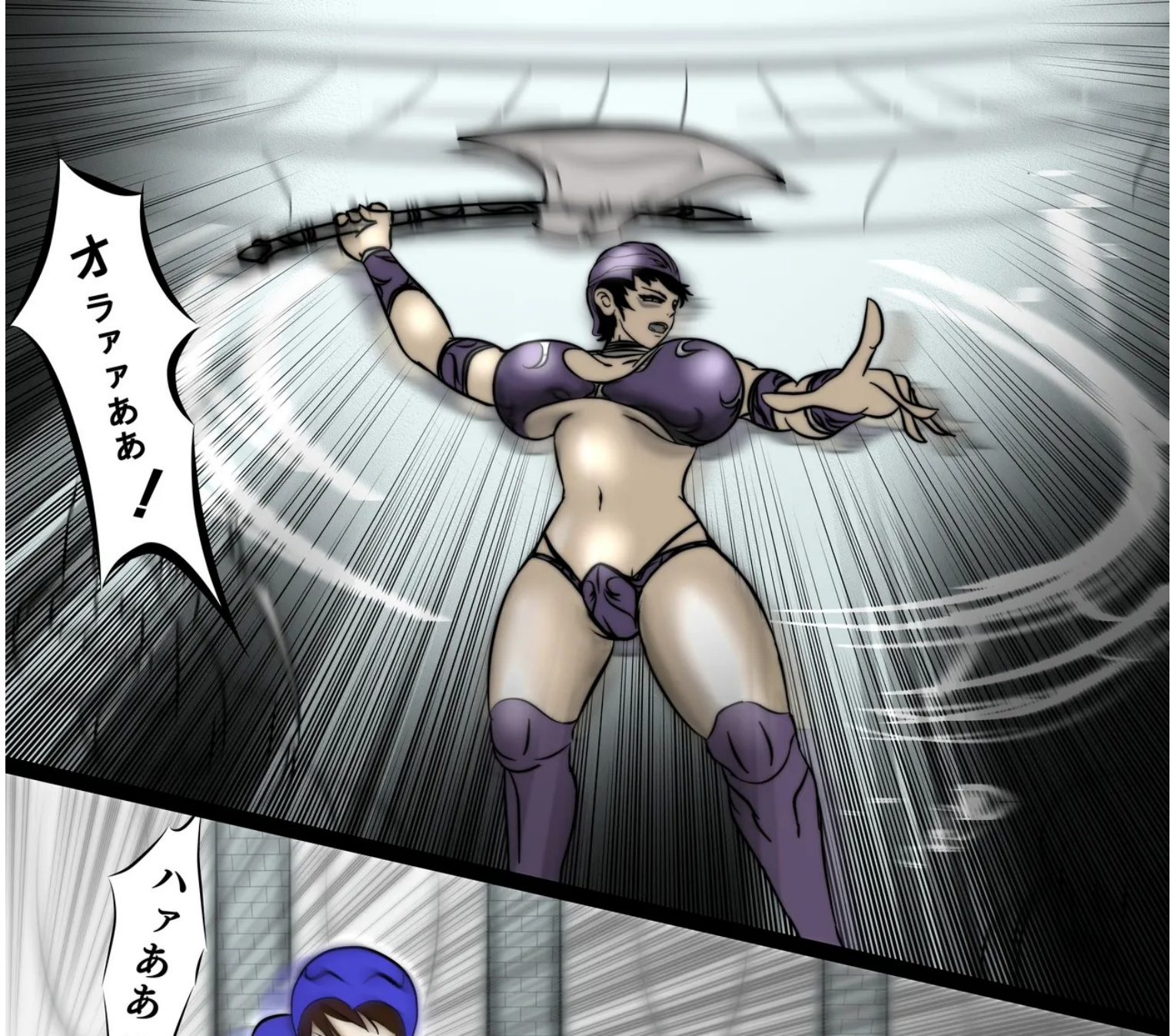
フウ・・・  
早く抱きしめたいわ  
汚い蛮族どもめ  
王妃に触れた者は  
八つ裂きだぞ・・・



ここで少しでも時間を稼ぐんだ  
・・・いいな

はっ





オラァァあぁ!



ハァあぁっ





ハア...

味方の兵士達は  
何をやっているんだ？  
1人もここに  
来ないじゃないかっ

ハア...

確かに...  
私が離れるまでは  
こちらが  
優勢だったはずよ

はあ...

ああっ...

ズブツ

ズボツ

ズブツ

ドチユツ

いやあっ...

アリシア隊長...  
助け...





あいつも来たな・・・あの女ならちょうどいい

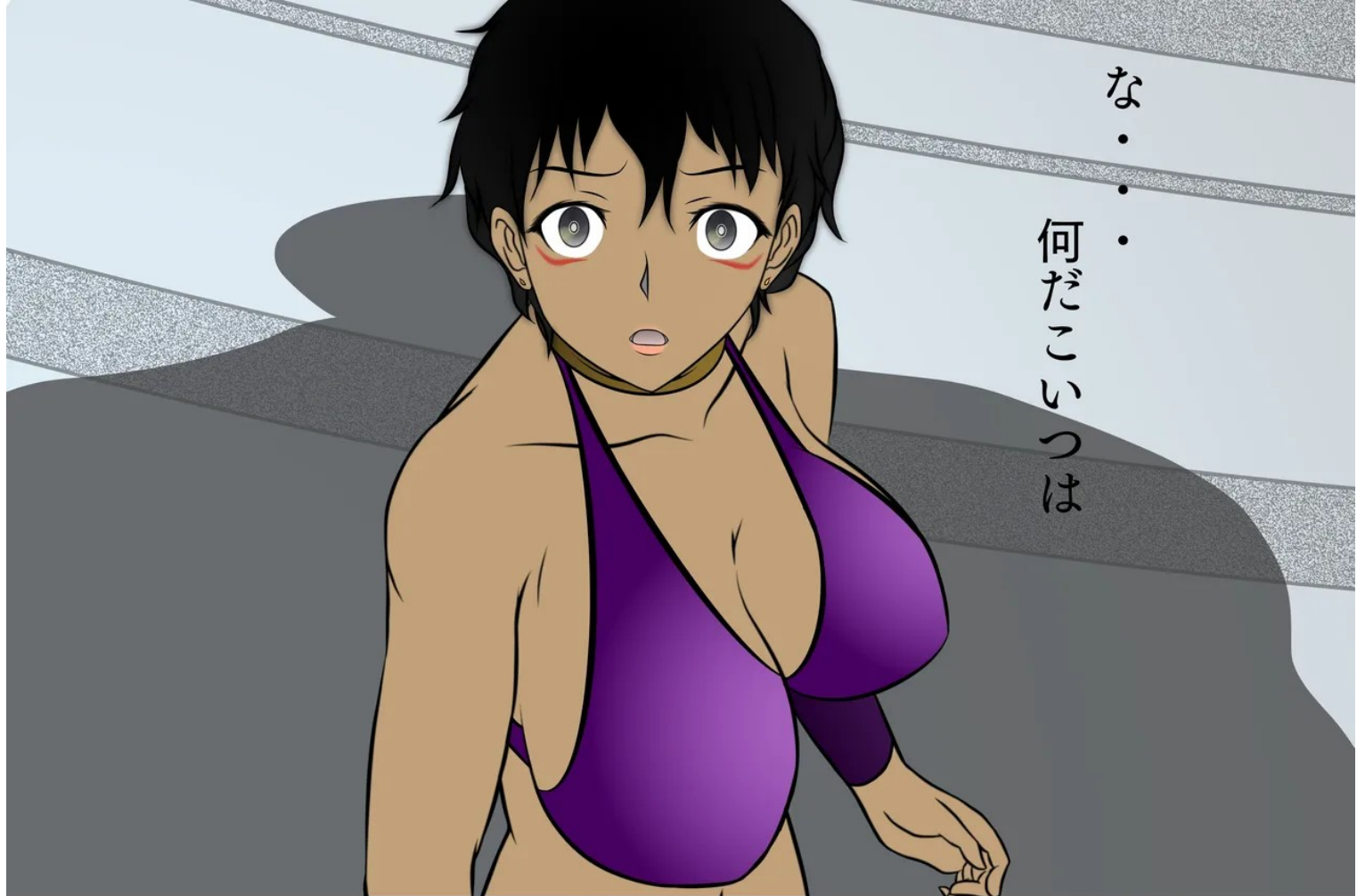
ハア・ハア・  
こいつらキリがないっ



!

次々とわいてきやがつて！  
何人来ようが絶対にな...





な  
・  
・  
・  
何だこいつは

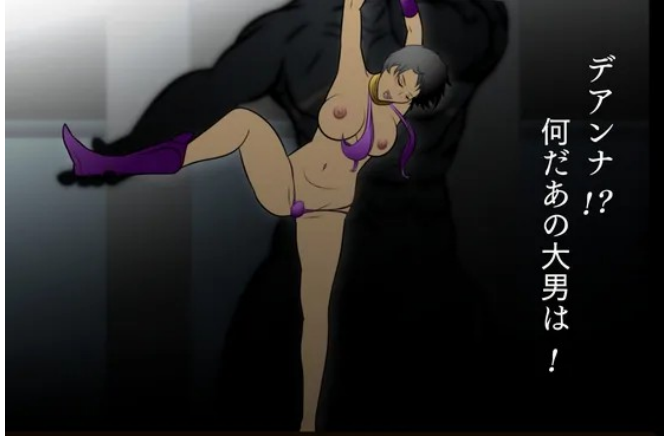


う  
め  
う  
う  
!

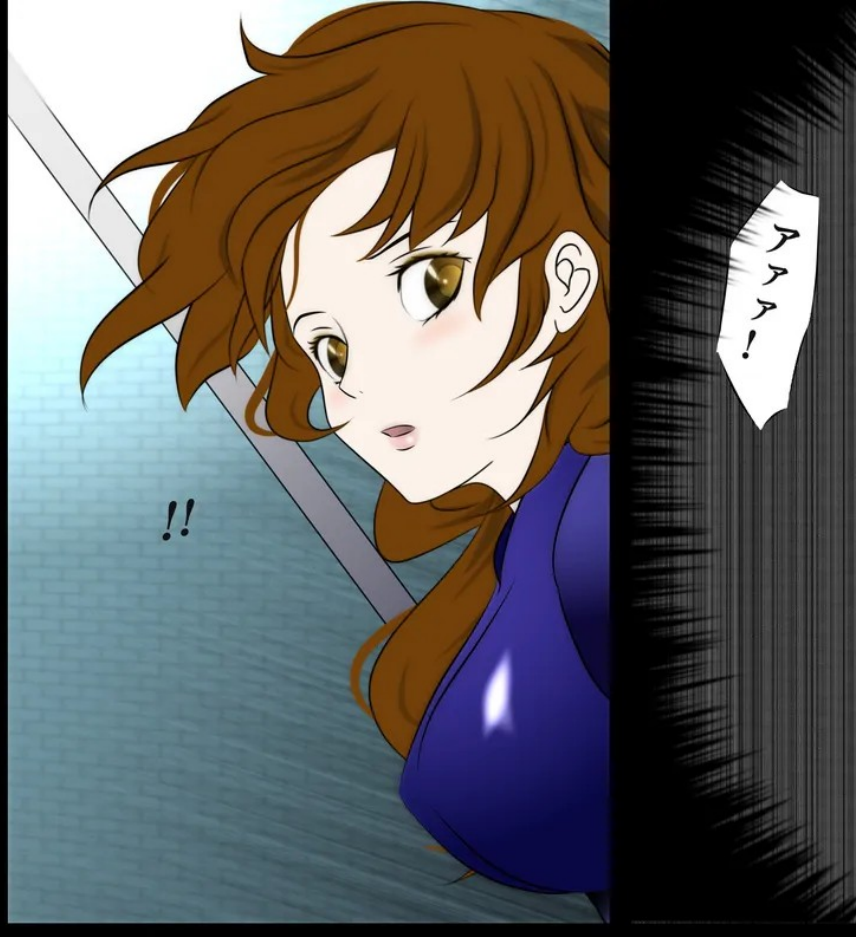
グ  
グ  
ッ

う  
う  
!



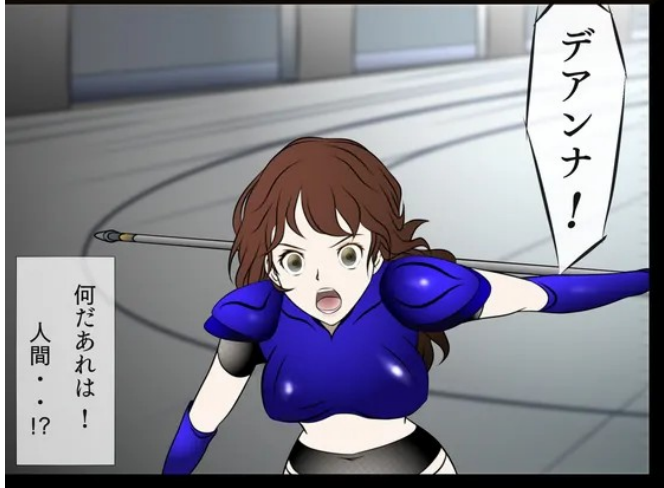


デアンナ!?  
何だあの男は!



アアア!

!!



デアンナ!

何だあれは!  
人間...!?



はなせっ  
うあ...

!!  
別の奴!



な!?



そんなじゃ無理だねえ



!!



どけっ!

ドスト



あっ!

ガシッ

しまっ・・・!?  
うっ・・・なんて力・・・



あっ! やめ...

グキッ

パキッパキッ

キヤアッ  
何をするっ！



み、見るな・・・

ひびッ  
めったぜ



騎士団長様のショータイムだ  
お前らも楽しめよ



ダッ

いっ!  
いっ!  
いっ!









あいつらの邪魔だけはするなよ...  
殺されるぞ

お前、バルダンでも  
先だっただろうが

次は俺だからな...

引き締まった身体...

おお...  
こりゃいい...



まて...

ハア...

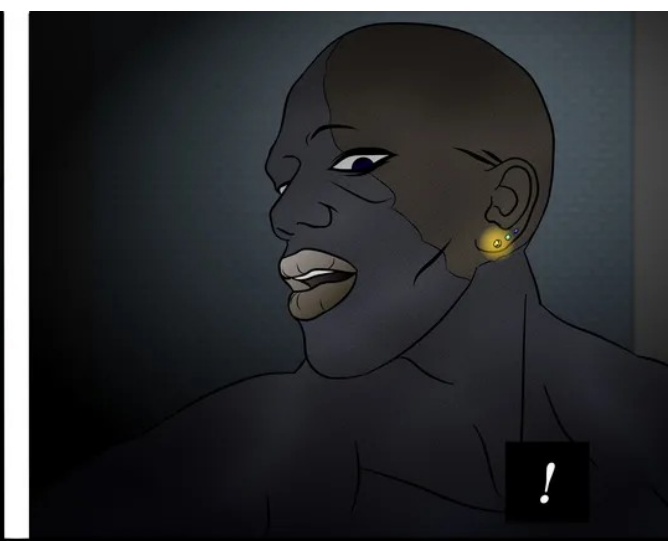
ハア...



まて... やめろ...



それは…



!



!? どうして…  
それは母上のピアス…



最強の女戦士集団  
アマゾネス…



女を襲う野党を  
力で追い出し、  
広く大陸一帯に  
女の平穩をもたらした

最近、一族が治める小国を  
次々と襲って  
食いものになっているのが  
こいつらラネド族だ

戦いに負け・・・  
囚われたお前の母達は  
全員  
ラネド族の性奴隷だ



嘘だ・・・

たまには帰ってこいよ

あのピアス・・・

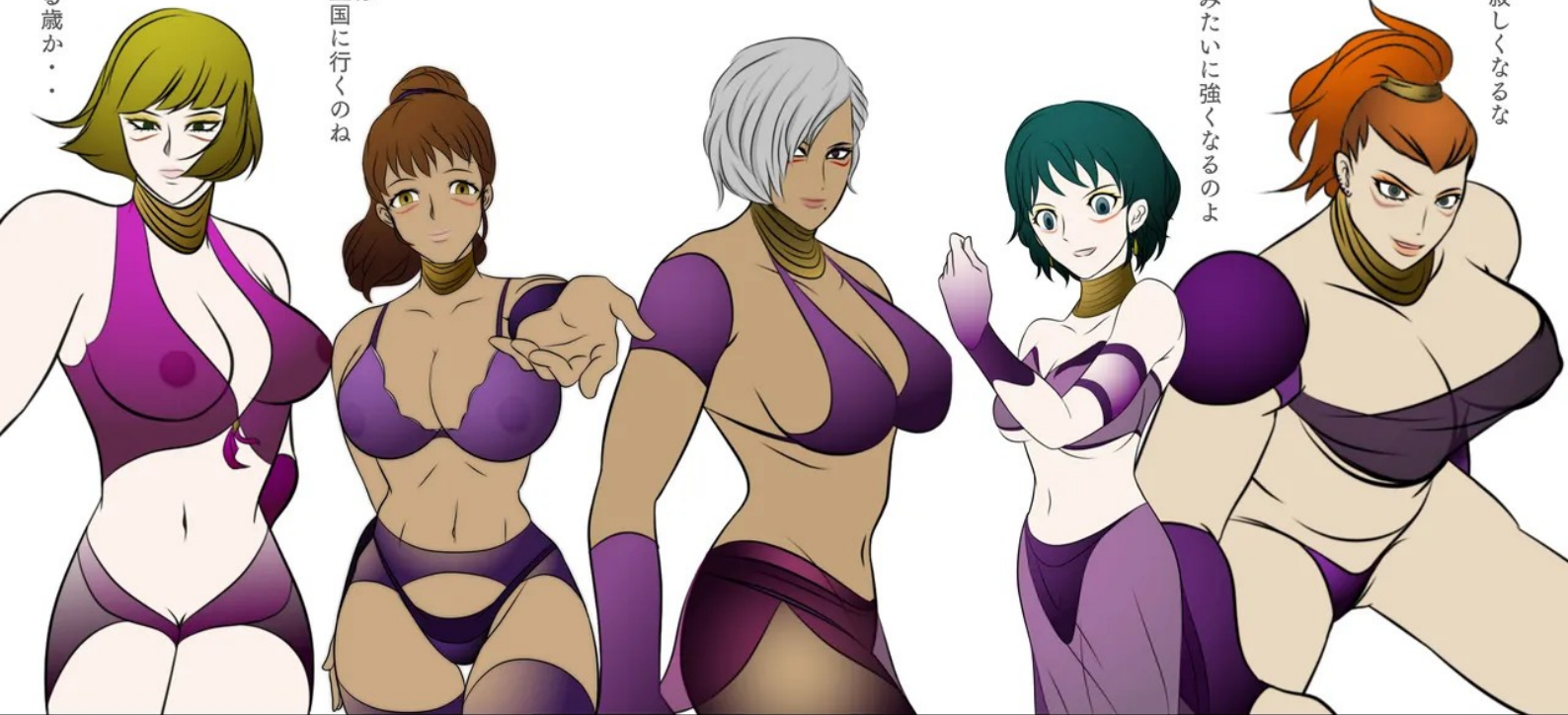
母さん達が・・・

フフ・・・寂しくなるな

族長みたいに強くなるのよ

デアンナは  
アリシア王国に行くのね

お前ももう  
一人立ちする歳か・・・



ウソだ・・・



母さん達が  
負けるものか!

特にそのピアスの女…  
一族のリーダーで  
強かったなあ…

まあ最後は  
自分から  
お願いしてたよ

『挿れて下さる』  
ってな

ウソだ!!

ウソじゃ無い…

### 3ヶ月前の事だ・・・

ハア・・・  
ハア・・・



許さんぞ・・・  
お前ら何者だ・・・

どうする??  
もう戦えているのも  
数人だが

諦めるとでも思うか?  
指揮官のお前だけでも  
道連れにしてやる!

・・・一族も大きくなり、  
今や多くの仲間が  
ここ以外の土地でも  
暮らしているようだな

次は・・・何も知らずに  
時々里帰りする女達を  
順番に襲うのが楽しみだ



な!!  
よせっ・・・それだけは!

デアンナ・・・

・・・外の一族には手を出さないと  
約束しよう・・・  
こここの侵略も終わりにする

え・・・

お前が俺の女になればな

!!  
な・・・  
何を言っている!  
なるわけが・・・そんな・・・

お前の自由だ・・・

どうする??

まだ何十人というラネド族と  
このまま戦って・・・  
負ければ外にいる仲間も全滅。  
ここの一族の歴史は終わりだぞ?

なに・・・  
ただ俺を喜ばせればいいだけだ  
早く決めないと  
こここの仲間も全員死ぬぞ

ぐ・・・

な・・・

・・・なにを・・・すればいい・・・

・・・守れよ・・・  
・・・約束は







うっ!!



いやあッ...



う"おっ!!



待って!  
お願い...

その仲間達も  
お前と同じ条件を受け入れたよ...



リーダーが...  
仲間を裏切るわけには  
いかないよなあ



さあ...  
族長の身体を  
楽しませてもらおうか...

うッ!

どろッ

腕をあげろ...

そう...

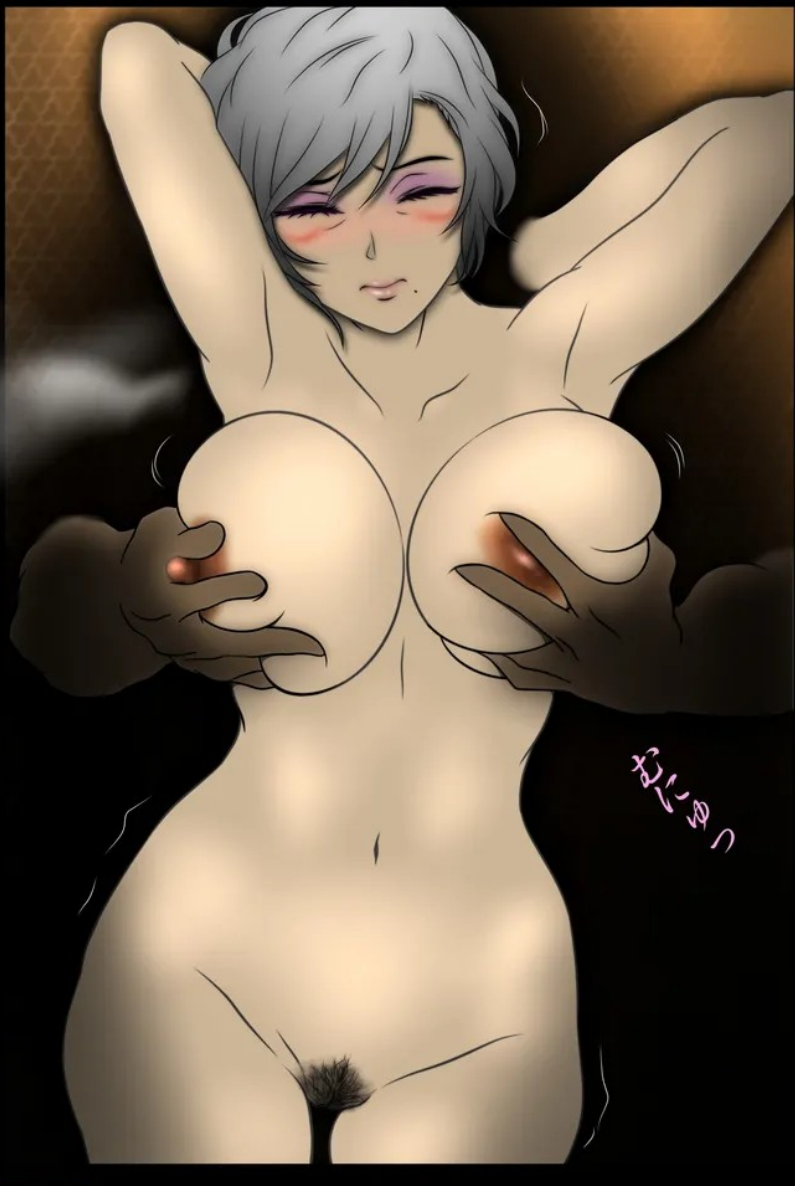
素直じゃないか...



あっ……

これはこれは……

族長……



ムギッ

おじゅっ



ハア……

アア……

うぐっ……

身体も一級品じゃないか

ああっ！

クチャコッ...

うっ...

ッロ

ンクマ

ンクマ

そこは...

あッ

あっ...

クチャ

グチャ

クチャ





あ...

どうやめ...て...

ああ!!!

グチユ  
グチユ

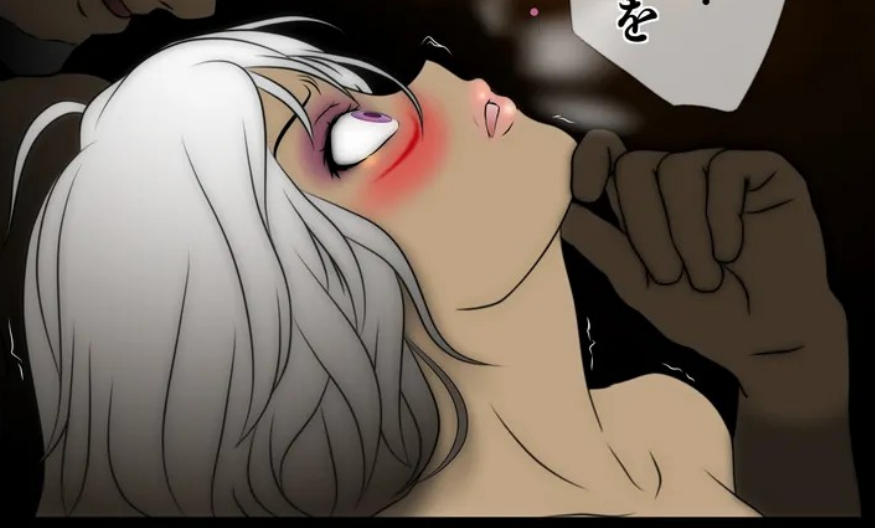
うぐっ!

グチユ  
グチユ



グチユ  
グチユ

いいじゃないか、  
見せてやれば...  
俺たち2人の初夜を



グチユ  
グチユ

せめて...うっ...  
せめて奥のベッドで...  
仲間に...  
見られたくない...



うあっ!!

グジュッ!  
ジュホッ  
ジュホッ  
ジュホッ

ああっ!!



ジュホッ  
ジュホッ

グジュッ!

グジュッ

だめっ!

お願いッ!  
ホントにダメ!!

待って!

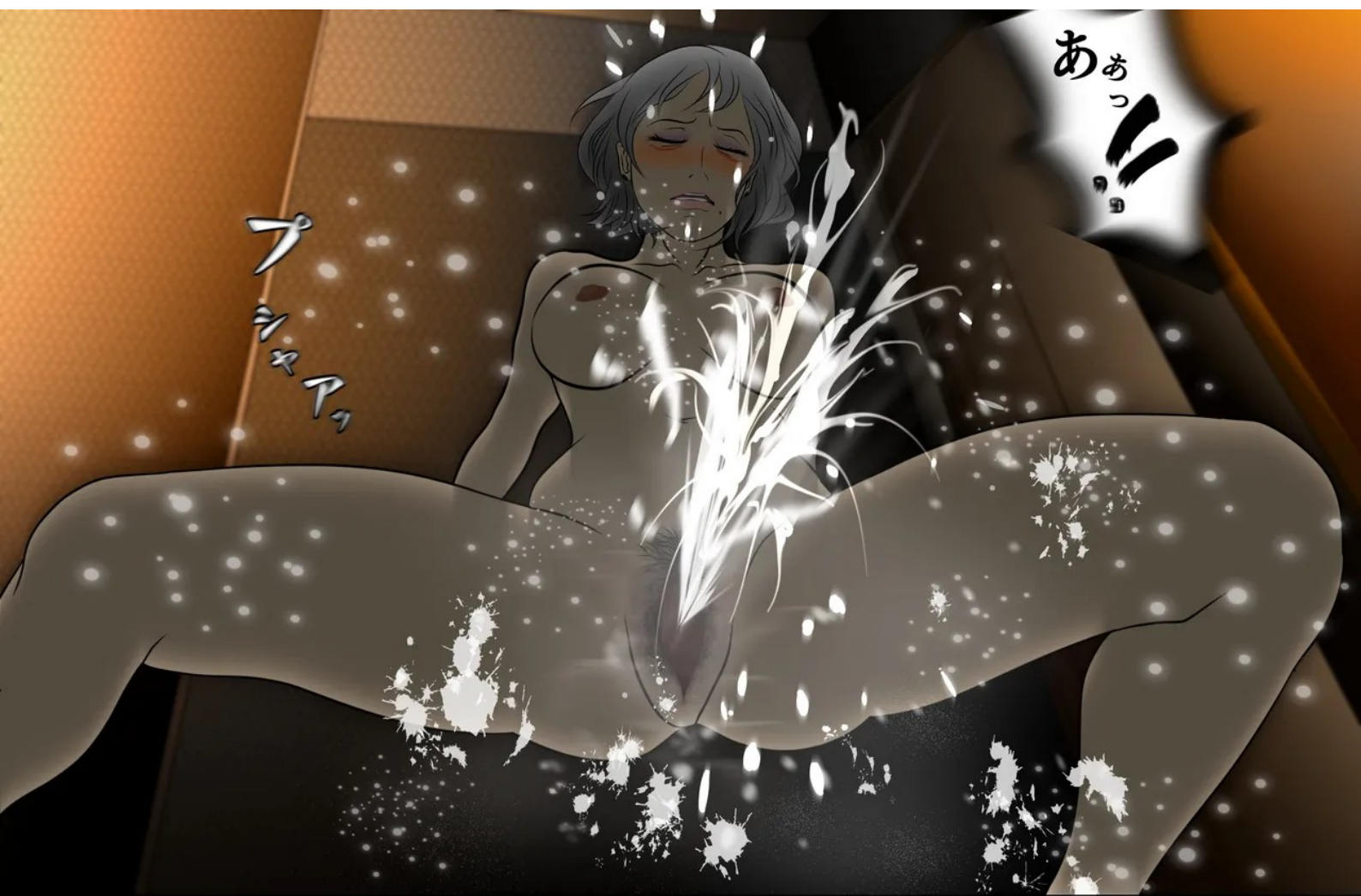
プジュッ

ジュッ

あつちゅっ  
!!に女

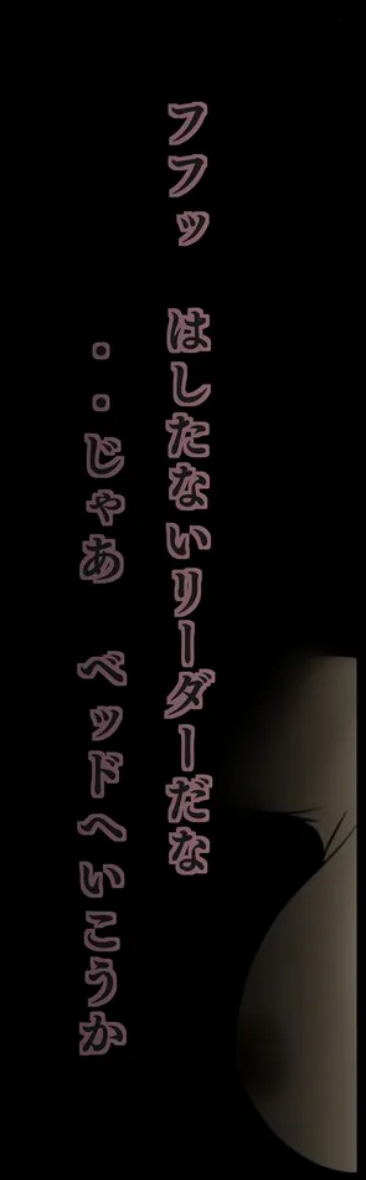


ジュホッ

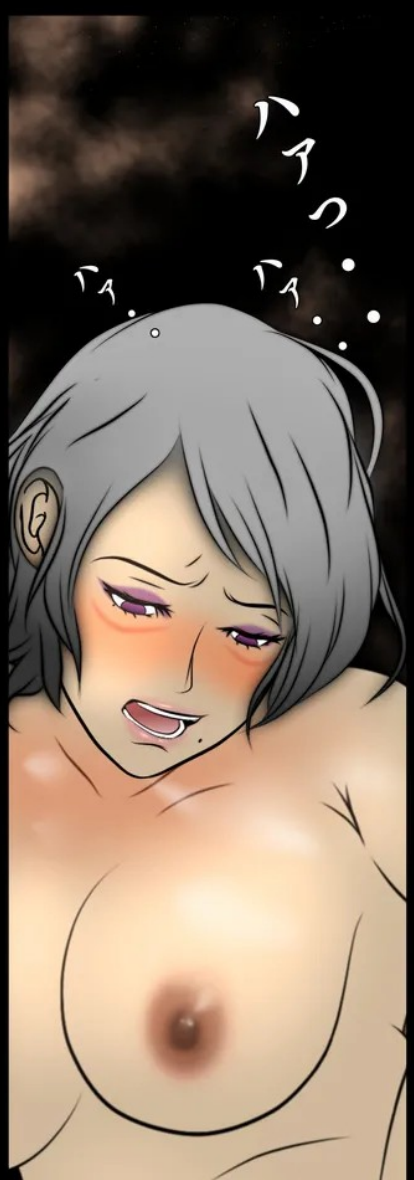


プシッ  
アッ

ああっ  
!!



フフツ はしたないリーダーだな  
。。。。ピャあ スワドムシコウカ



アッ  
アッ



イヤぁ...

アッ  
アッ

アッ

アッ





チュルツ



今夜、俺が満足しなかったら  
・・・約束は白紙だからな

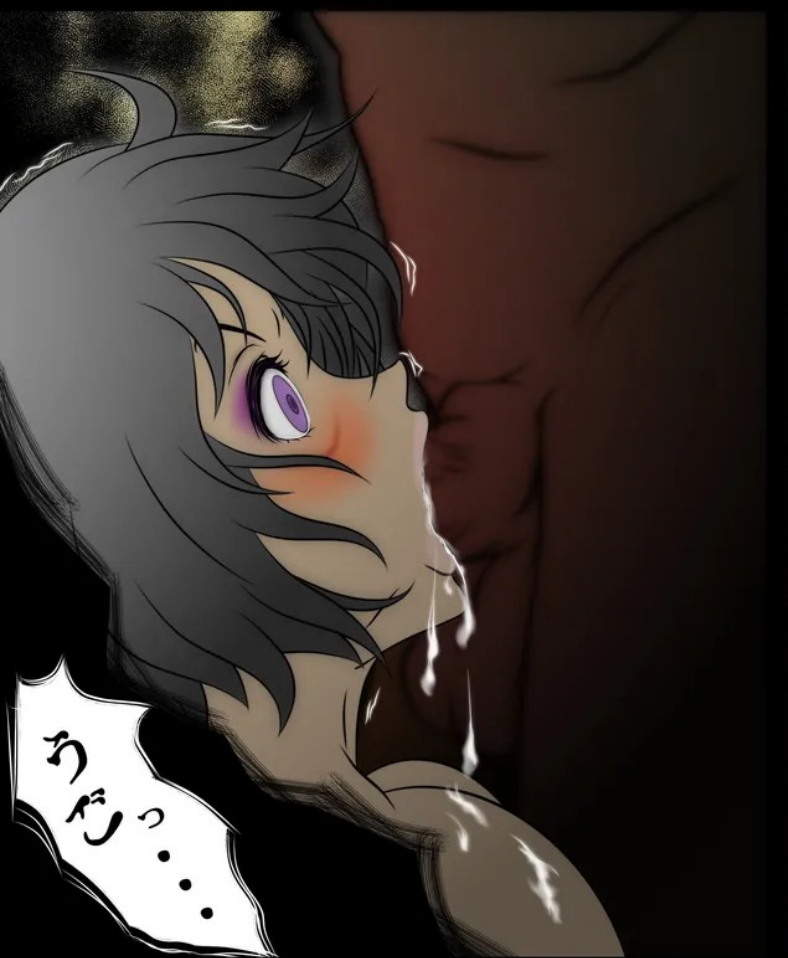


頼む、外の仲間達には...

...どうすれば...  
満足してくれるのか分からない...

その...男女のこういうことは  
ほとんどしたことが...

そうかそうか...  
男を殺すのが専門だったからなあ



あ...っ...



俺が女にしてやろう

うじょ!!



出すぞ!!



ズジュ!!

ズポッ!!

ズン!!





!!

まっ...  
待ってッ

スッ...



...  
や...  
...

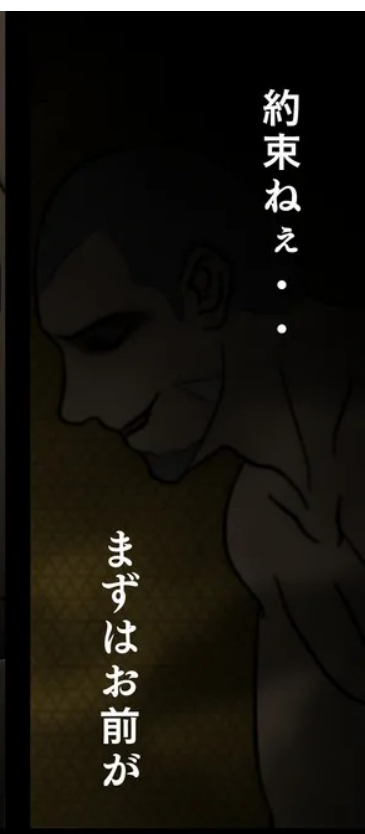
約束を...  
本当に守って...  
お願い...



うっ っ

守ってからだろう

うっ



約束ねえ...

まずはお前が



チププツ

おお おおき...



あーっ!!

うっ

あーっ  
待ってっ!!  
大き過ぎるっ...



そんな...

母上...

嘘だ



ギシッ

ほあつ...

うう...

ギ  
ツ  
ツ

ギ  
シ  
ッ

ヌ  
チ  
ヨ  
ッ

チ  
チ  
ユ  
ッ

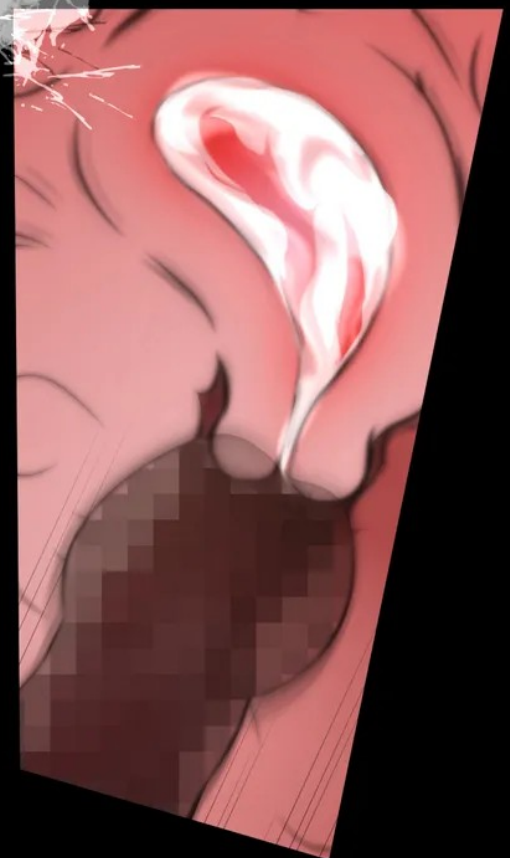
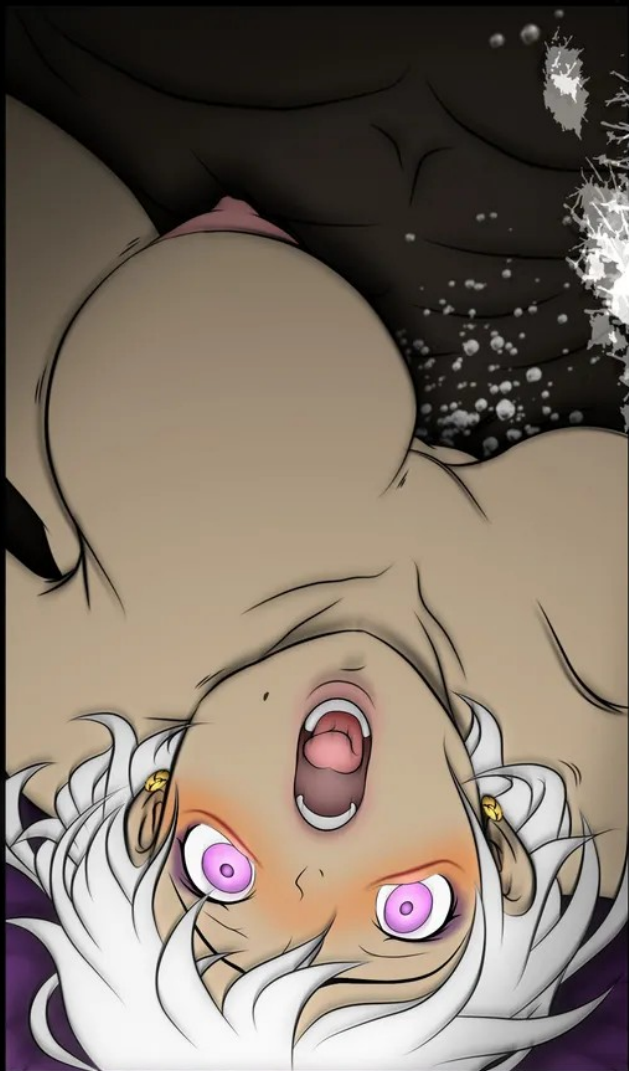
チ  
チ  
...

ね  
っ  
と  
り  
絡  
み  
付  
け  
ら  
れ  
...











ズルッ  
ズルッ  
ズルッ



ア...あ



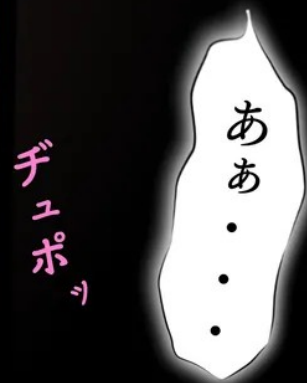
モロッ

ビクッ

ドクッ  
ズクッ



ムムッ...  
ムムッ...



デユポッ



えっ...

グイッ

どうした...  
まだ始まったばかりだぞ...



!...

グッ



待つ...  
今ダメ...

ズブズブッ



ああ!!

プシユッ

あ  
あっ!



あの締めりは  
最高だったなあ・





おいおい・・・  
話はまだ終わってないぞ・・・  
ここからがいいとこなんだ



貴様!!



フフッ・・・  
自分の状況を忘れたのか?  
お嬢さん



殺してやる・・・

ギ  
ン  
ッ  
ン



うあ・・・

ムキョ・・・



ふぐッ!

お前もこれから  
母親やあいつと  
同じ目に合うんだよ



アリシアの声!



ア...



いやああッ!

アリシア...

あ  
あっ!!

ハ  
ア  
ッ

ア  
ウ  
ッ

ア  
イ  
ッ

ウ  
チ  
ゴ  
ッ

ド  
チ  
ユ  
ッ

ド  
ス  
ッ  
ド  
ス  
ッ

ド  
ス  
ッ



この状況……



ハア……

ハア……

ハア……

王妃たちはもう  
地下道から脱出しているはず……

だが、すぐに地下道も見つかり、  
追っ手が出る……

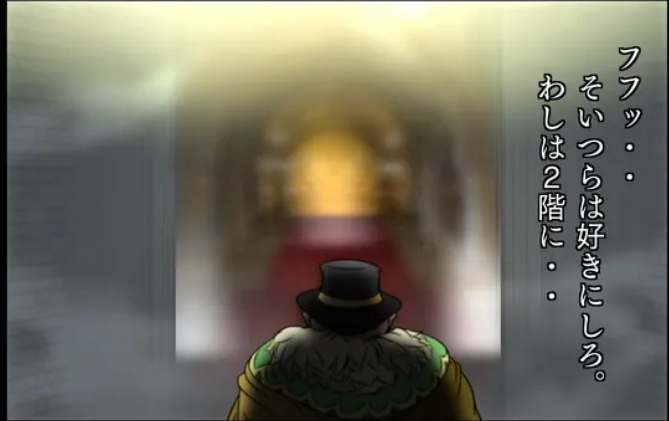
早く向かわないと王妃達が危ない……

ハア……

ハア……

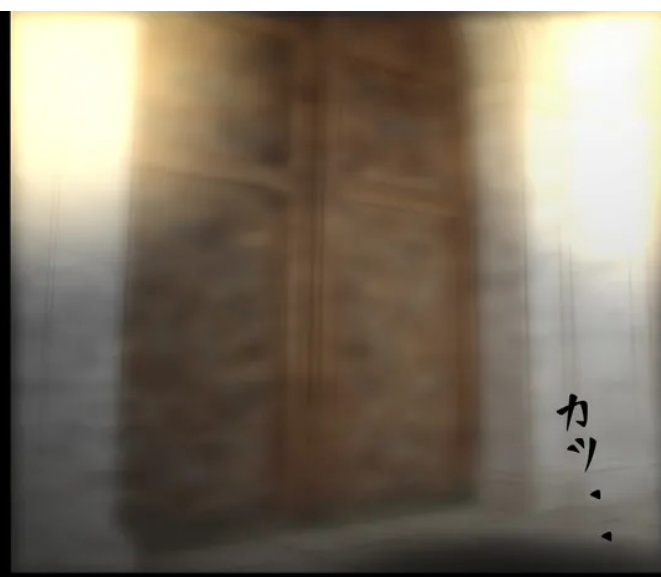


フツ……  
そいつらは好きにしろ。  
わしは2階に……



ぐっ……待て!!





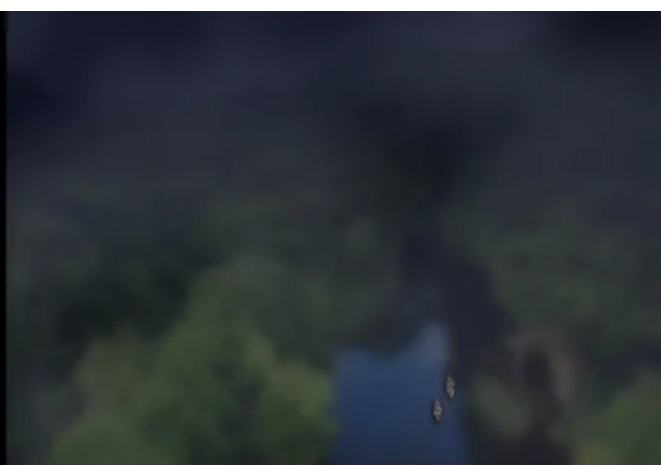


あ  
あ  
あ

あ  
あ  
あ

!!

ラミッド王国まで  
ずっと森の中です。  
しばらくお休み下さい



みんな・・・  
私が戻るまで、  
どうか無事で・・・





エアルザ(王妃)  
エルナ(王女)  
兵士数名

これまでの  
登場人物

同盟国ラミッドへ船で移動中



メルシア襲撃中



ガイル ゾル公爵 ラネド族



バルダン国 兵士

王国防衛中



デアナ マトイ アリシア



ローズ マリル



ロンじい 王国兵士達

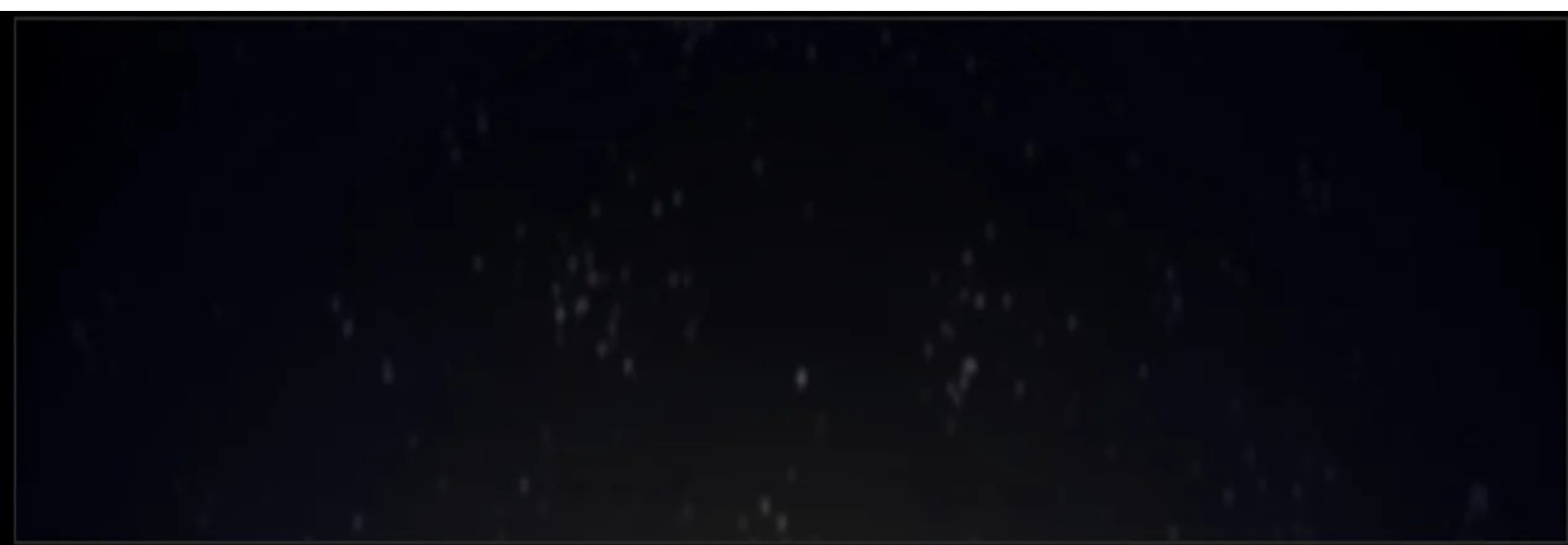


ザザー

ラミッド王国までずっと森の中です。  
しばらくお休み下さい

ライネさんの言う通り  
少し休まれないと...

大丈夫ですよ王妃様  
マトイ達がいるんですから

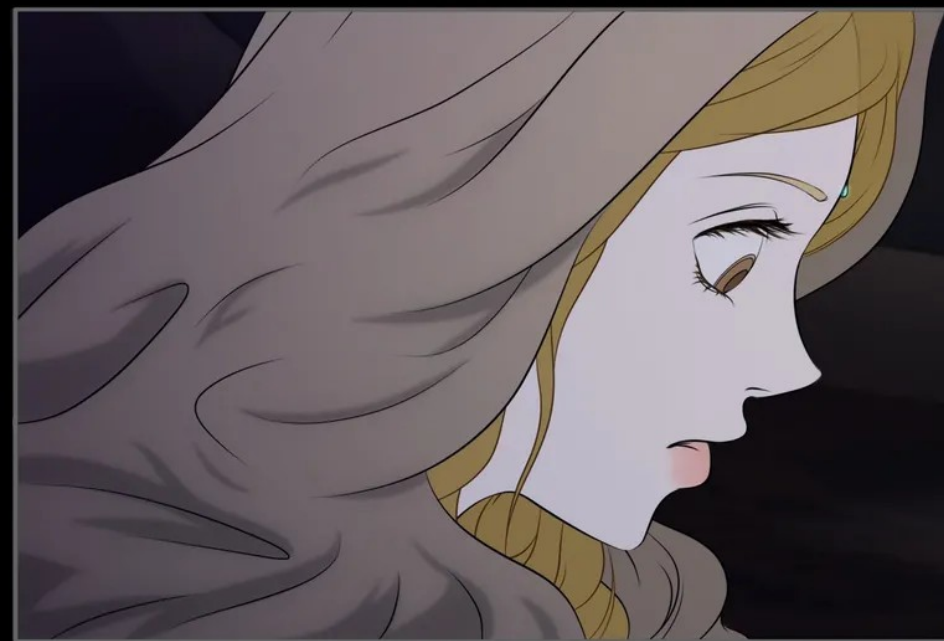


あ…



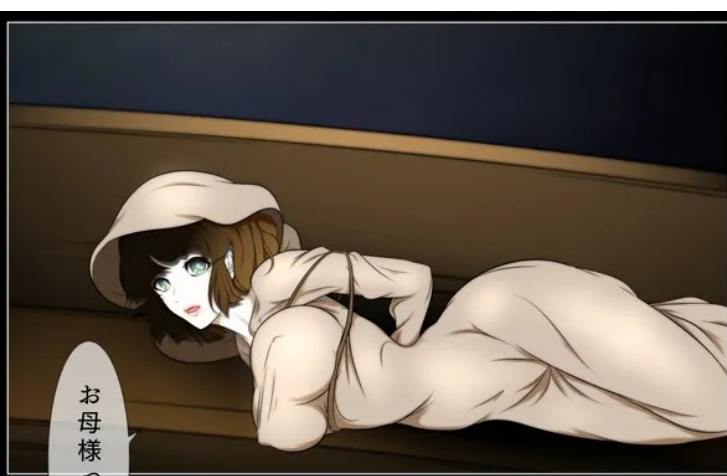
お目覚めですか 王妃

ライネ…



ハッ!

これは…



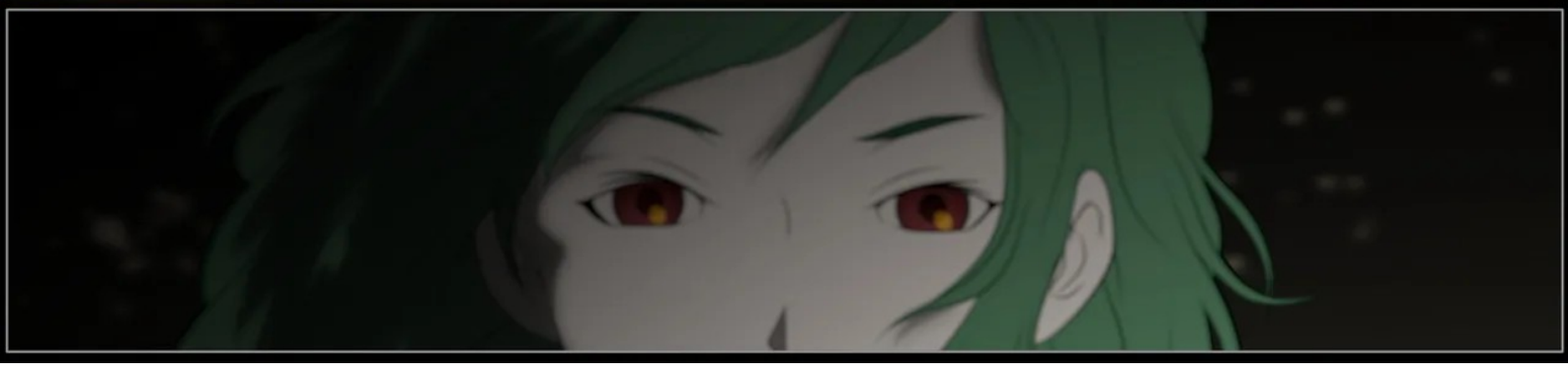
お母様っ・・・




！  
エルナツッ！




ライネツッ！  
貴様・・・





バルダンの眠り薬は  
よく効くな・・・


武器と鎧は  
全て捨てたぞ  
・・・かつての同志よ



そんな・・・  
ずっと国に仕えてきた  
あなたがどうして・・・



国と一緒に死ぬなんてゴメンだ



ごめんね・・・  
あたしは・・・



連れて行くのは  
王妃達3人・・・



我々をどうする気だっ！  
またメルシアへ・・・



お前達兵士は  
向こう岸にいる連中に  
渡す約束だ・・・

向こう岸・・・

あそこだ

アッ

そうだ・・・  
目立つようにしておかないとな

！よせッ

ビーンッ

あッ

ビーン

なんだ？・・・

あれは・・・

うそ・・・

きたぞ・・・  
船を引っ張ってこい

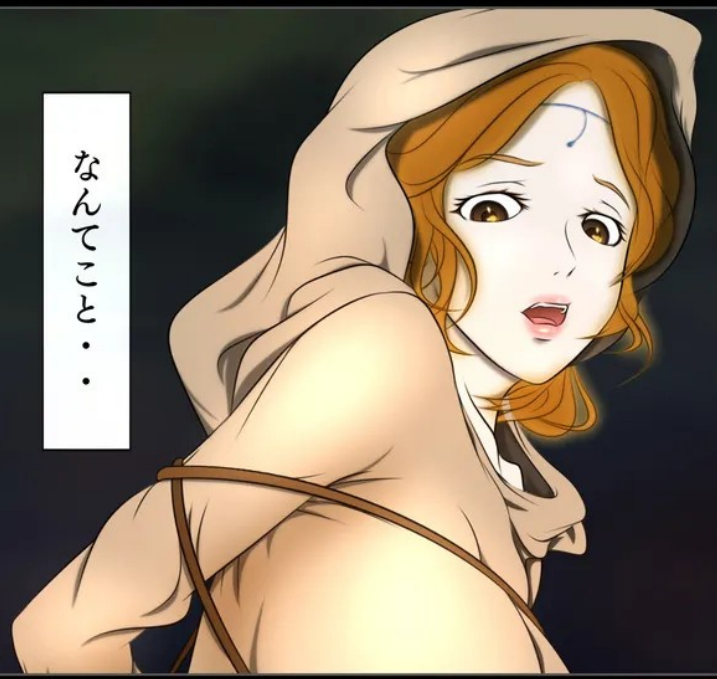
ヒヒヒッ  
メルシアの女だあ

舟がきたぞお



どうすれば・・・

なんてこと・・・



きっと助けが来る・・・

何か時間を稼げれば・・・



メルシア王国

みんな・・・



王妃・・・

王妃  
王妃・・・

申し訳ありません

!!  
えりょっ

みみ  
みみ...

みみ  
みみ...

早く...

逃げて...

えりょっ

あ  
あっ





ハア...

お...あ...  
あ...

...!  
...!

腕が...



意識が...

ぐっ...!!

飛ぶ...



キッ



腕が外れたっ!!



ハア...

ハア...



チャンスは一度きり

こらっのっ

目を潰す!

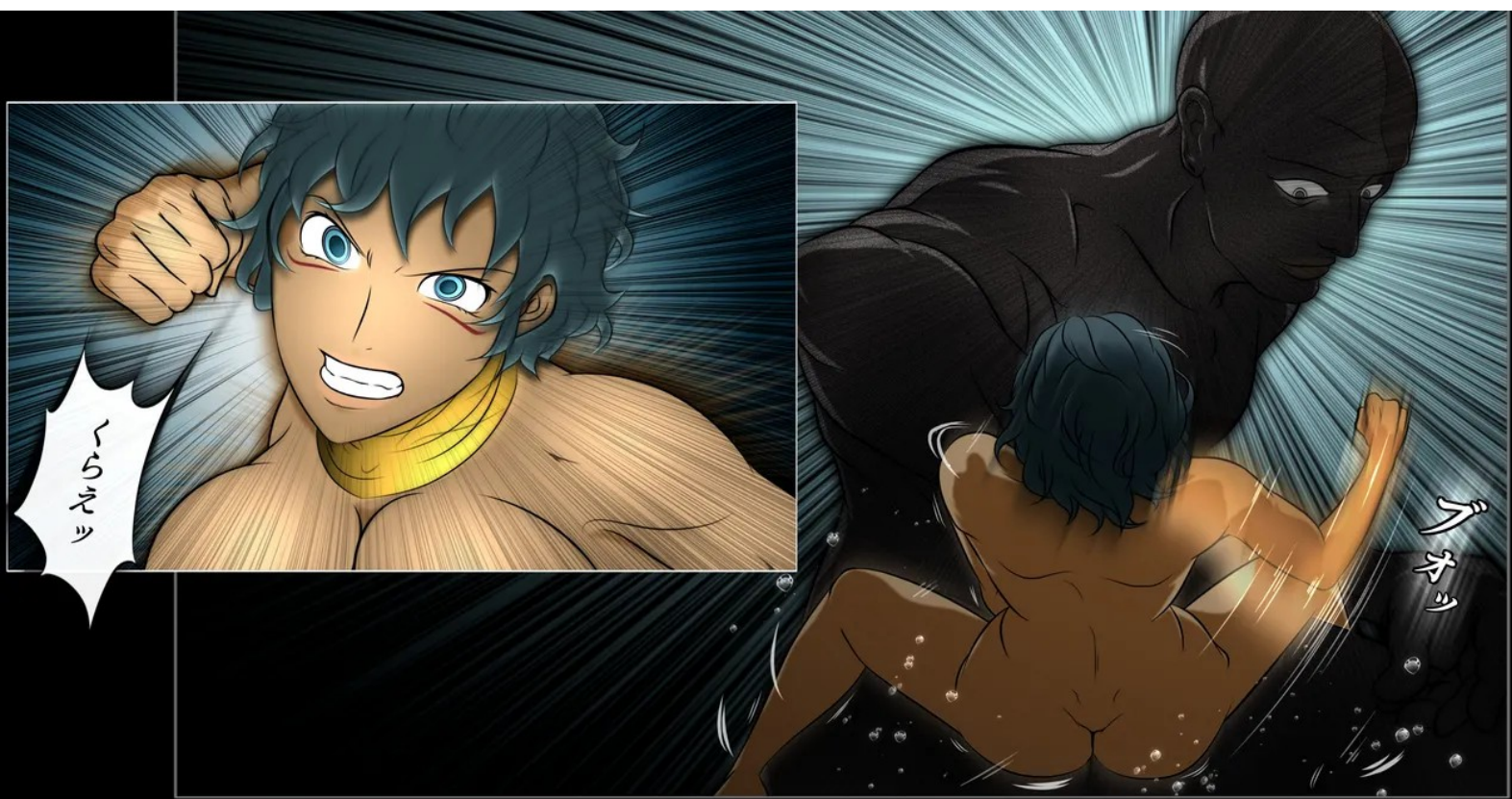


うおオオオオッ!!

王妃っ・・・!



すぐに  
そちらへ向かいます



くらっ

ブォン



ふじっ

ブッ

!?



うそ...!



ブルッ

チキチキ

ブッ





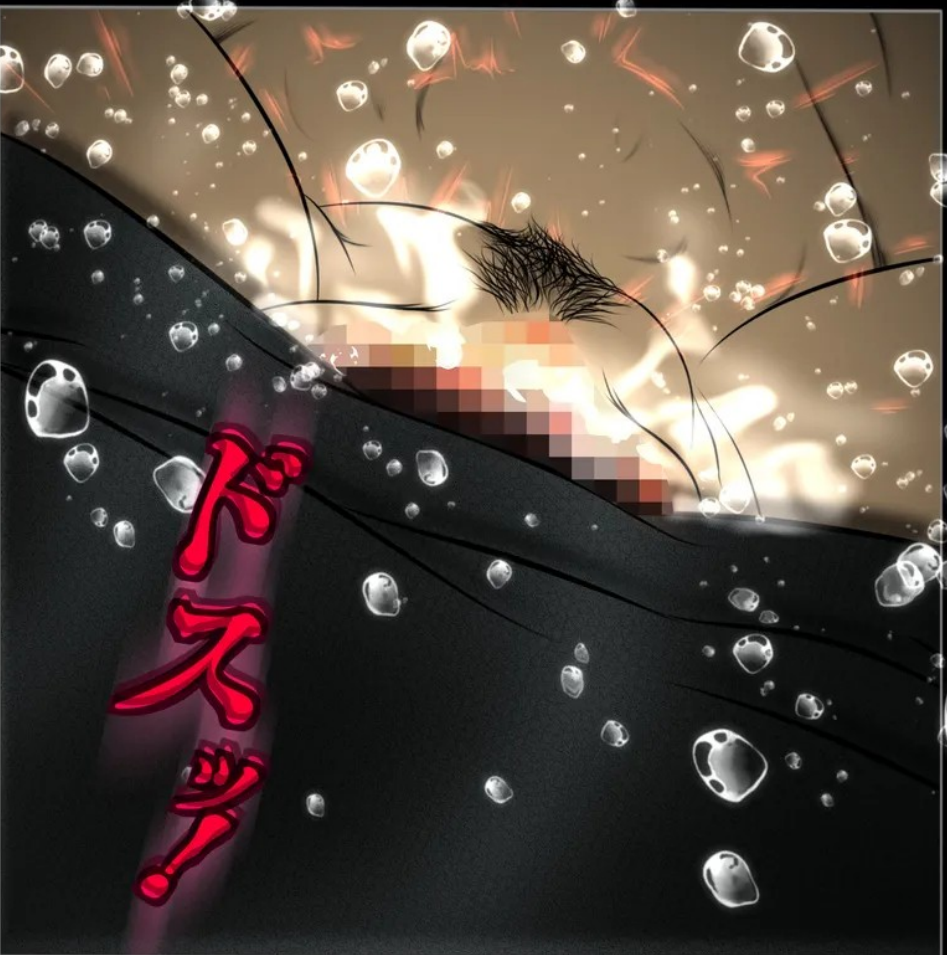
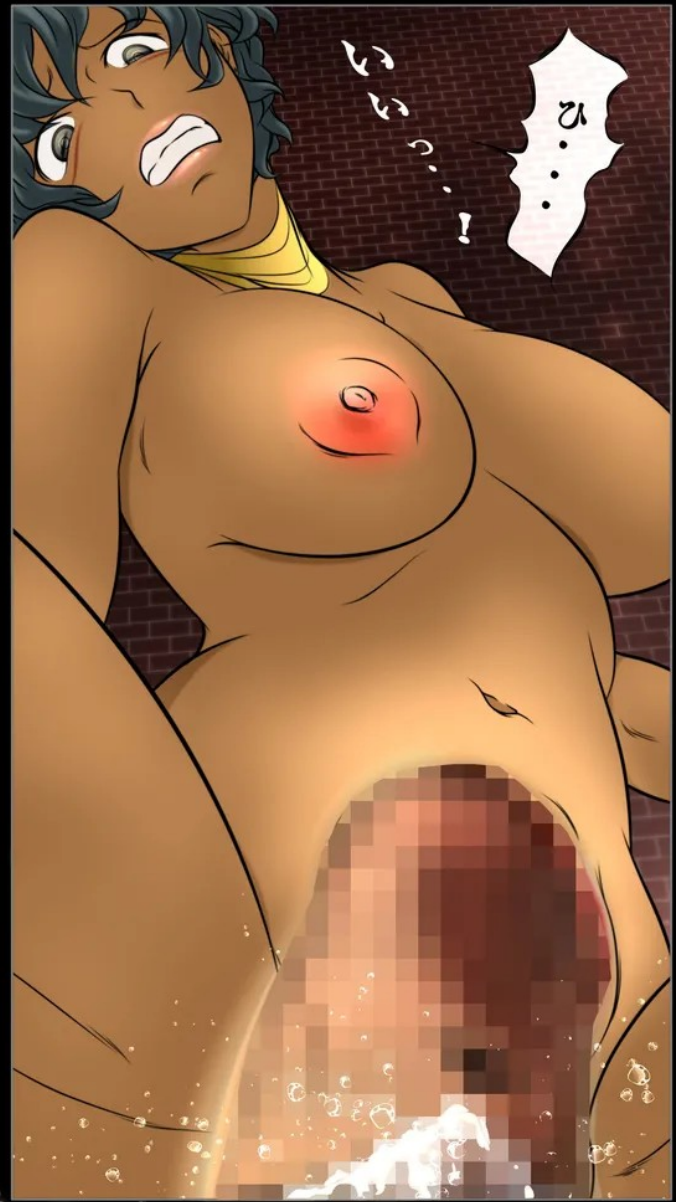
やめ... っ  
これ以上は... っ

あ... っ  
... っ

アハハ



あ... っ  
... っ



早くこいつの目を...



王妃...



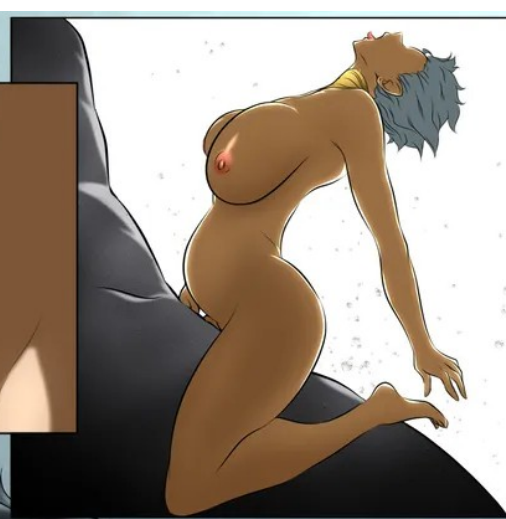
いッ!?

ゴッ  
ッ  
ッ!



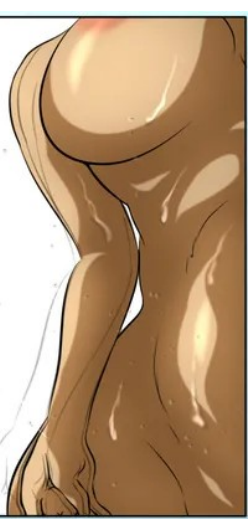


あなたも...

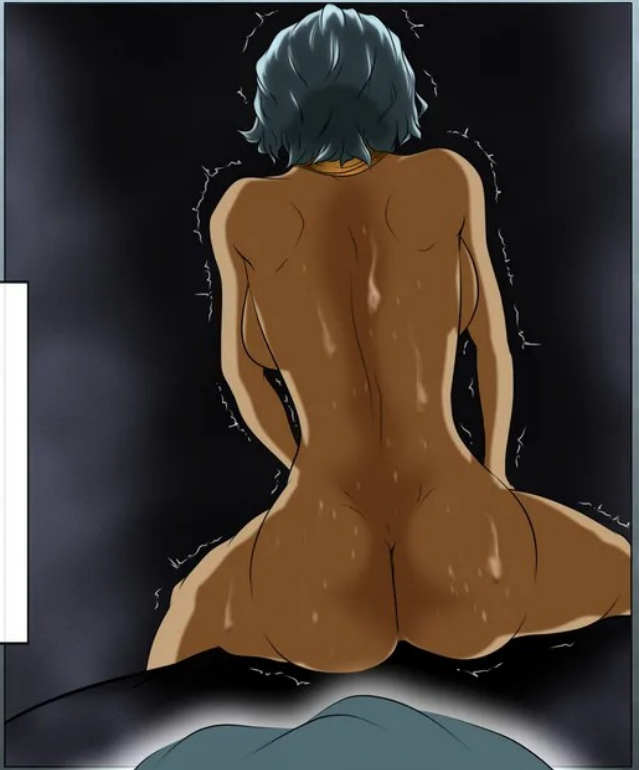


デアンナ...

フラン...



来たのね...

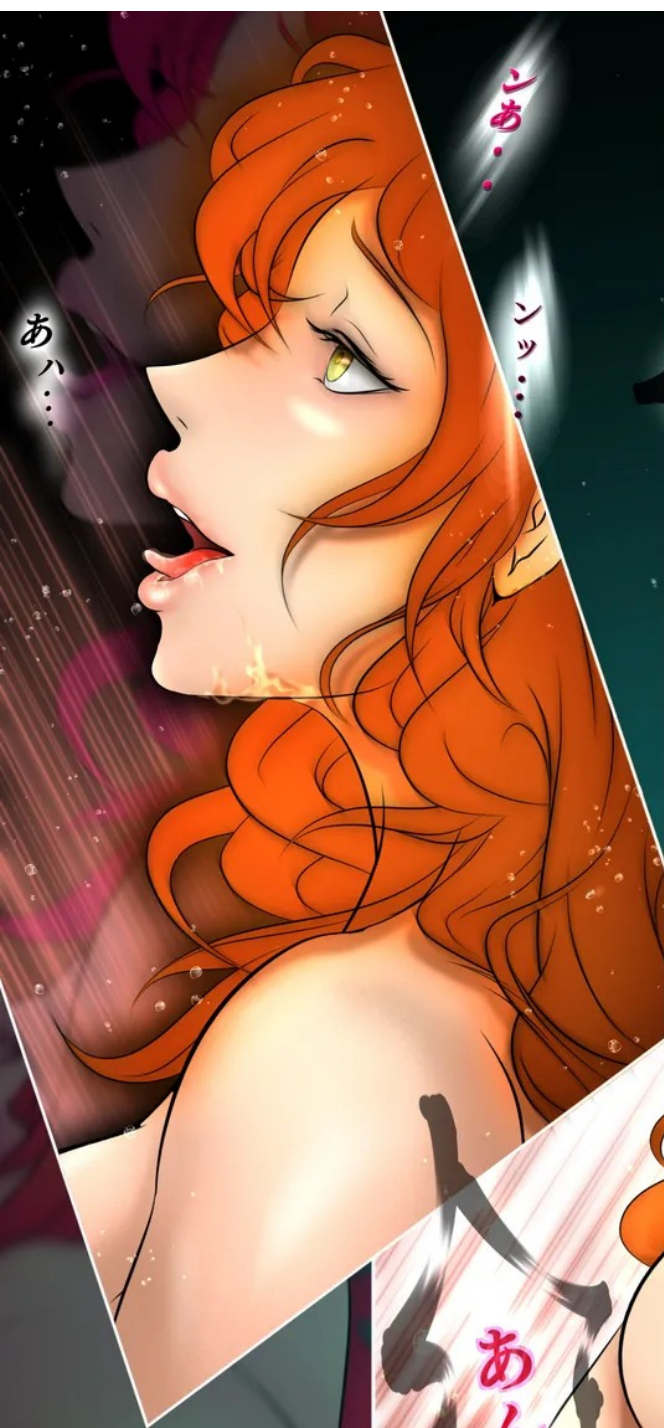




こっちに・・・

ズチユツ

ズチユツ





こんな...

ドチユッ! ドチユッ!



も...

かはっツ!

逃げられない...

グリュッ! グリュッ!

ヒスッ! ヒスッ!



キヤアッ!!

うぐっ...

ガッ!

ズズズッ

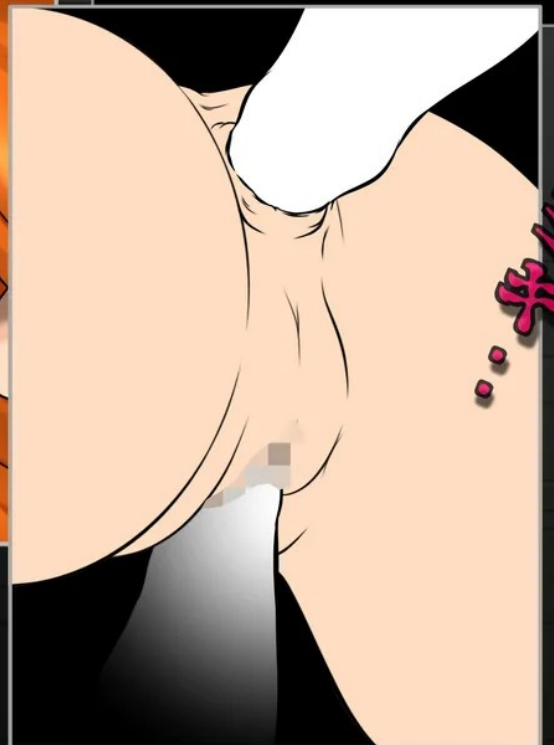
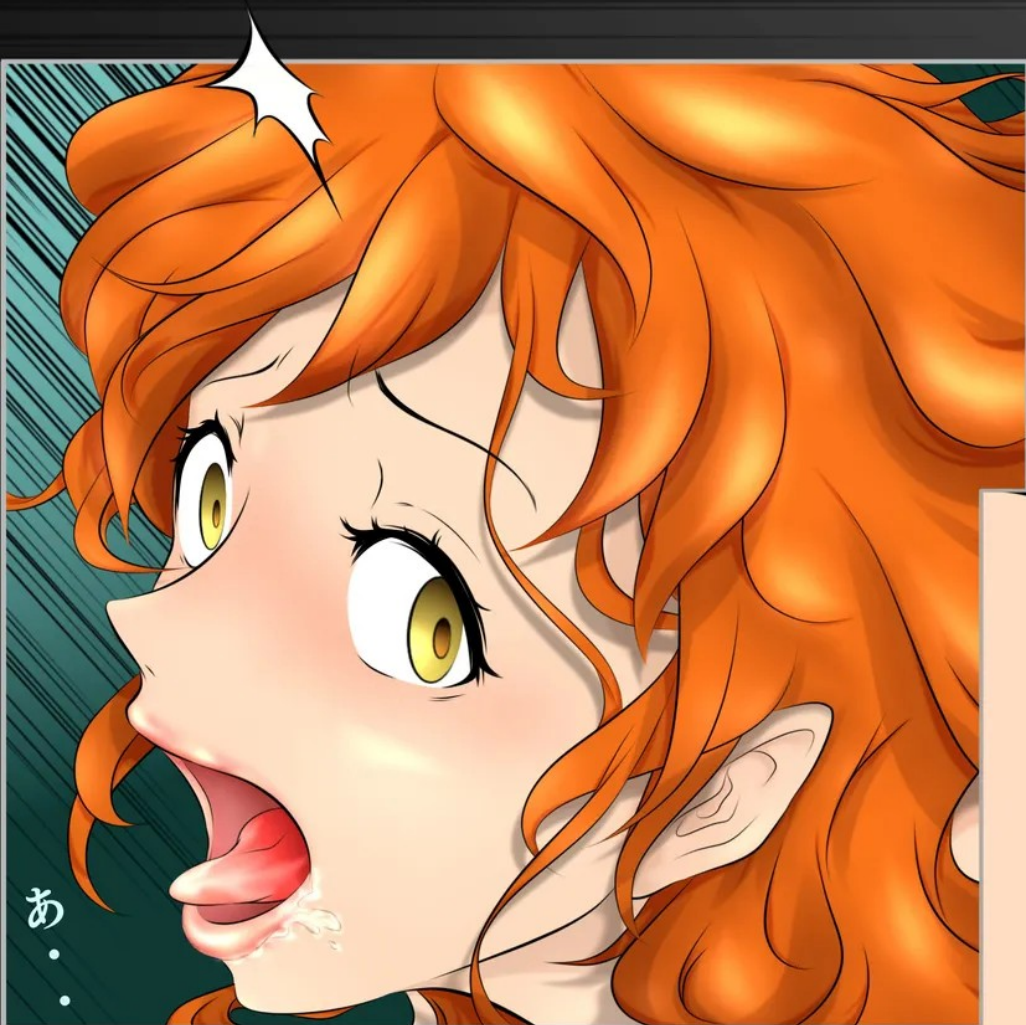
ズズズッ

あ...

ズズズッ!!

ズズズッ!

ズズズッ...





ズチマ

!!











ダッ

ダッ



早く・・・

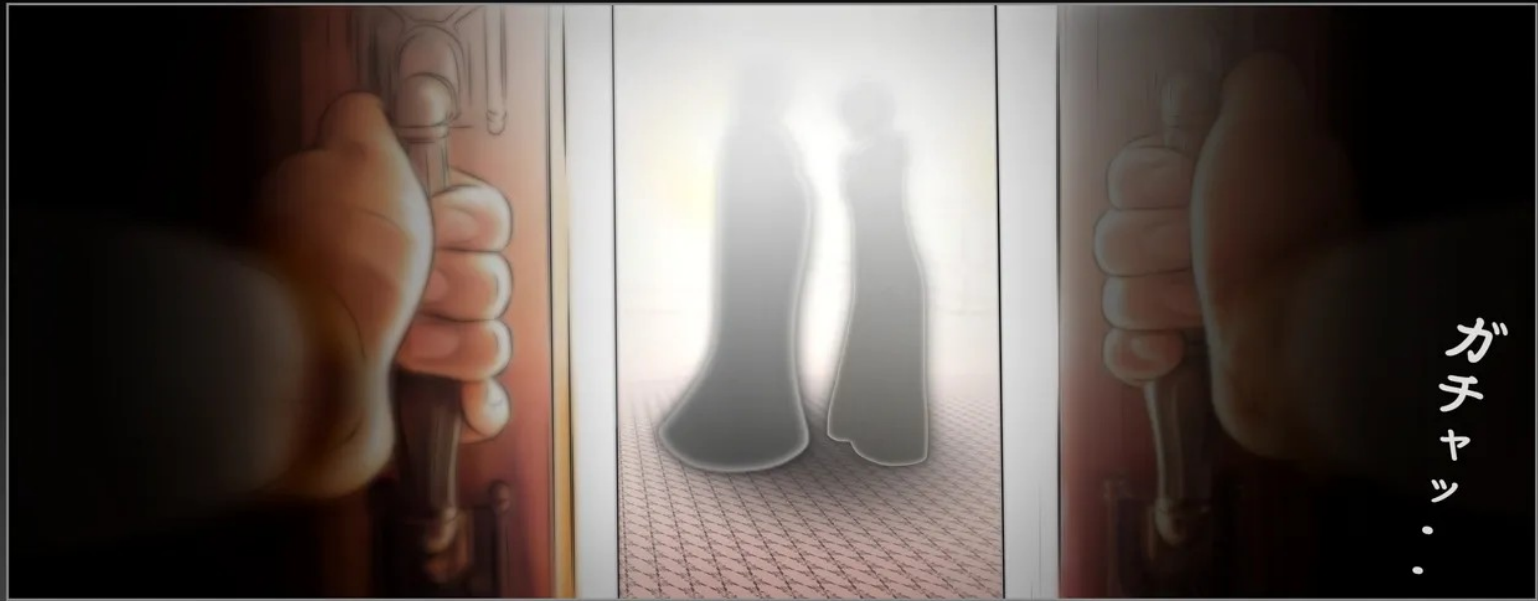
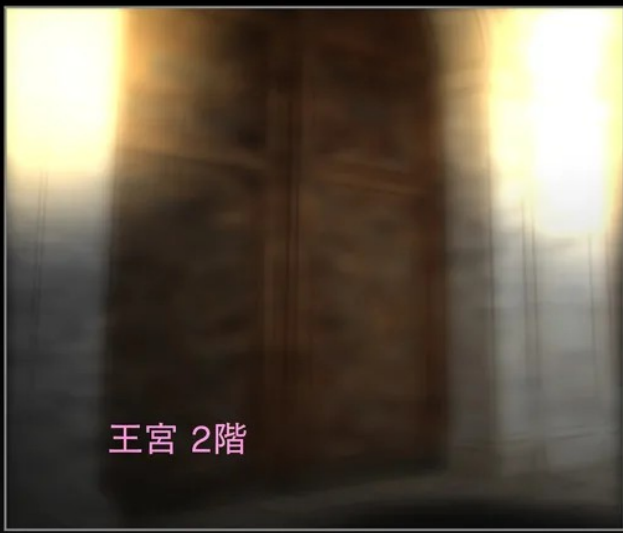
ダッ



メルシア王国はもう・・・

王妃・・・







美国メルシアの...

...一人で...



ようやく会えたねえ...

うん...



おお...



王国メルシアの女王 エアルザよ

王女エルナと...

これまでの登場人物



### 同盟国ラミッドへ移動中に捕まる



### メルシア襲撃中

### 王都防衛中





夜明けが近い：

城を出て5時間ぐらいか：

この川沿いを走れば

王妃の船に追いつく…

ドカッ

ドカッ

奴らは止められない

王室の脱出口も見つかる…

ドカッ

ドカッ

ドカッ

もう追っ手も出ているはず

早く合流して

お伝えしないと…

ドカッ

王妃とラミッドに、早く、灰色の奴らの事を：

そうだ・

王妃直属の護衛隊も

一緒に脱出してるはず・

ローズ護衛長がついているなら  
ひとまずは安心だが・

5時間前：



メルシア王国

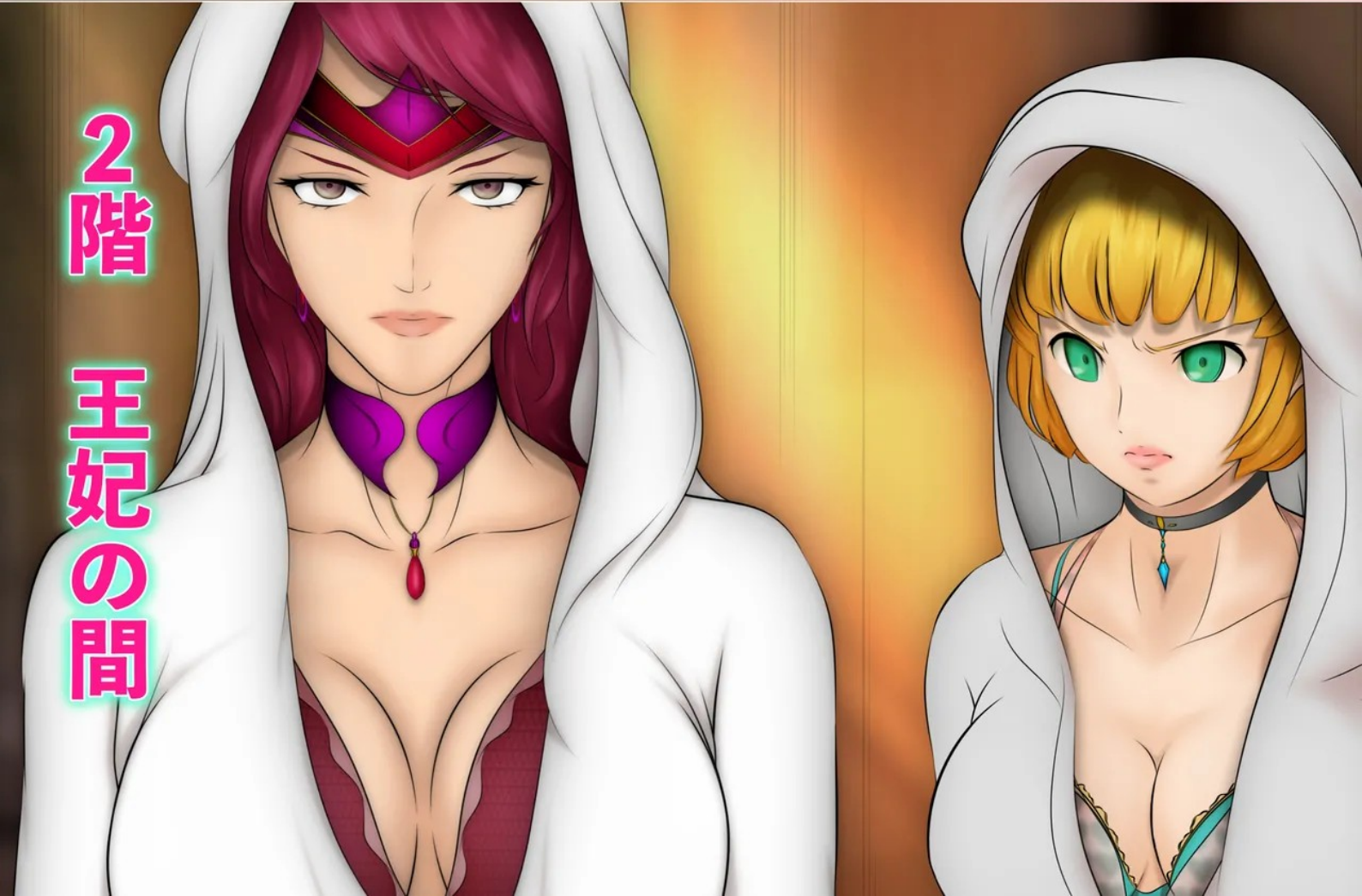
王宮



ガクッ...



ゴク...



2階  
王妃の間



一人で？...

おお...

ようやく会えたねえ...



コイツ...



マリル:

よく聞け

はい、隊長。

万が一： 敵がこの2階まで来たとして、

最初に入ってくる一団にはバルダン国の指揮官がいるはずだ。

一階の隊長達から抜けて来られたとしても

部下はせいぜい数人：

我々で油断させ、指揮する男を真っ先に殺す。

連中が混乱したら一気に押し返すぞ…



まさか： 指揮官!?

下手に確認すると  
バレるかもしれない：



オオ...

だが：

この部屋に最初に  
入って来て：

何よりこの身なりは：

：間違いない：



この男を殺せば：



まさか一人で飛び込んでくるとは...



こんな間抜けなブタに  
王都が...



私が殺したかったが

カシィ...





こいつの後…



くたばれ外道っ！

すぐに残りを  
一掃してやる…



ガキン!!!

ゴッ!

ザザン  
おれっ



ザザン

おれっ

いつも言っているでしょう…

だから…

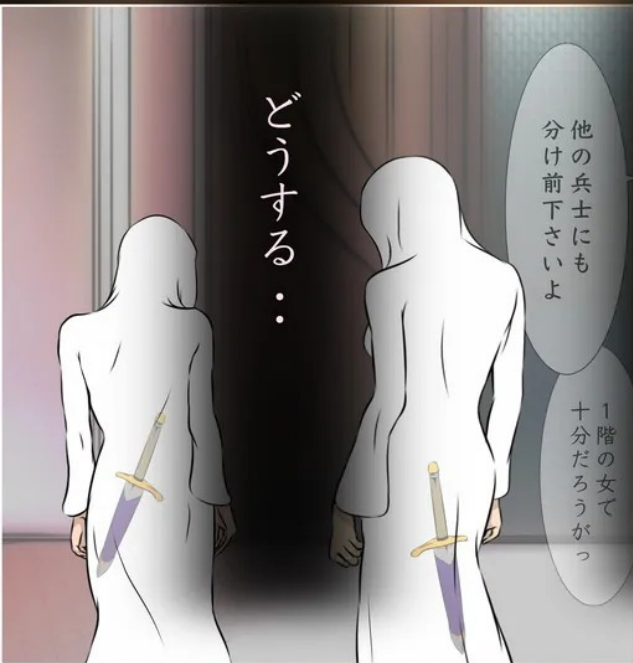


一人で先に行かないで下さいよって…



王妃は  
取りませんから…

手練れ…側近か!?

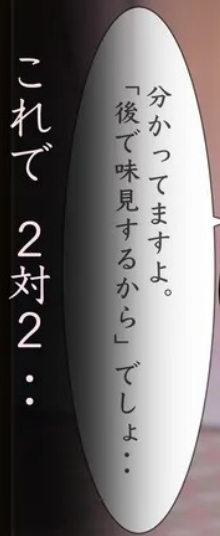


どうする…

他の兵士にも  
分け前下さいよ

1階の女で  
十分だろうがっ

これで 2対2…



分かってますよ。  
「後で味見するから」でしょ…

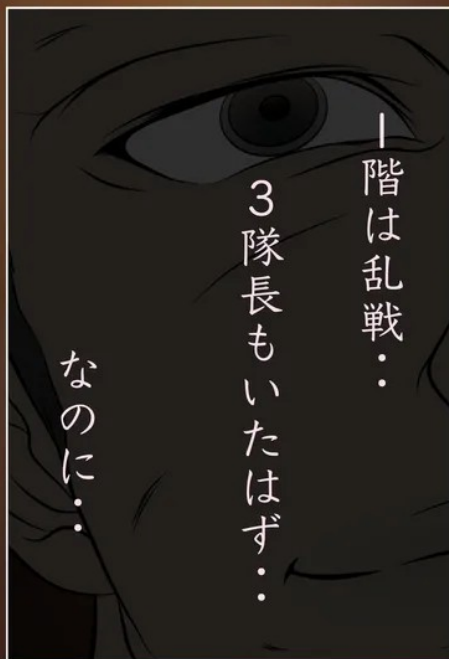
待てっ…殺すな!

衛兵2人を一瞬で…



傷…汚れ…汗…

いつも無いだと…



1階は乱戦…

3隊長もいたはず…

なのに…



あの大男…

もし戦って倒せなければ： 正体がバレて

この部屋の奥の脱出口も見つかる

そうそう・・・  
メルシアの女だぞ

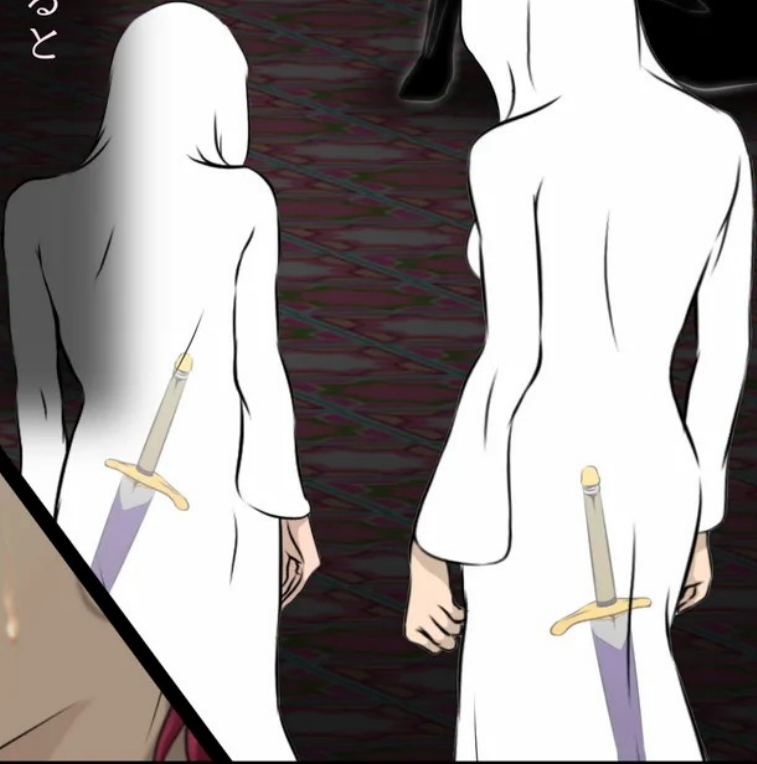
まったく・・・

今すぐ追っ手が出ると

王妃達に追いついてしまう・・・

それだけは：

今は時間を稼がないと・・・



なぜです：

どうしてこのような事を・・・

あなた方の目的は：



去年の、王の葬儀の時にね  
遠くからでしただけど  
初めて見たんですよ・

あの時から、そのドレスの下が見たくて見たくて・  
苦労したんですよ？　ここまで来るの

・とうとう私に  
順番が回ってきた・

全身を  
一晩中舐め回して・

こいつ・

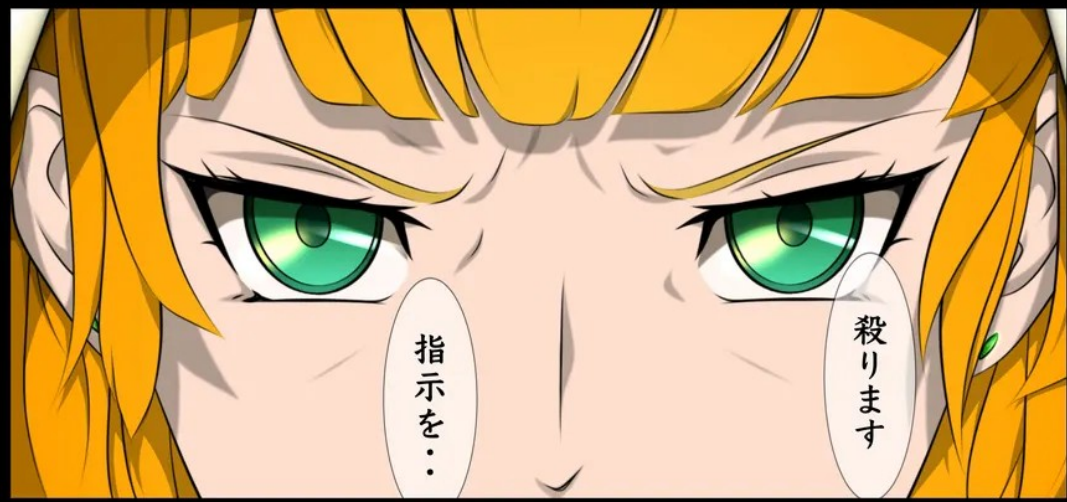
朝まで  
可愛がってあげますから

朝まで・・・か・・・

それだけの時間  
ここに足止め出来れば・・・



ラミッドまで無事に着くはず。。



殺ります

指示を・・・

護衛長の私がいる限り、

エアルザ様には

指一本触れさせない

必ず援軍を連れてきます。  
どうか生きていて下さい。

マリル・・・  
二人も一緒につ・・・

・・・王妃、

すぐ下の広間にまで  
敵に侵入されています。  
考えている時間はございません。

我々は下の加勢に向かいます。  
・・・どうかお早く

衛長でありながら  
一緒出来ず申し訳あります。  
舟のところで  
下がお待ちしております。  
・・・また後でお会いしましょう。

1階は隊長達が  
交戦中とのことです  
ローズ護衛長、  
急ぎましょうっ

いや・・・下には行かない

えっ!?  
・・・何故ですか。

マリル、  
お前を呼んだのには理由がある  
着替えるんだ。  
髪型も化粧も出来るだけ似せろ

・・・遠いバルダンの連中なら  
王妃達の顔をよく知らないはず。  
王妃は、私が演じる

!!


この侵略は：終わるんですね？

!?

：それで。

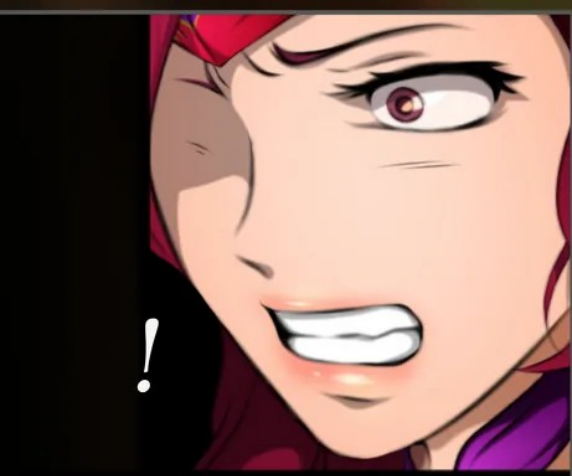
パサ：



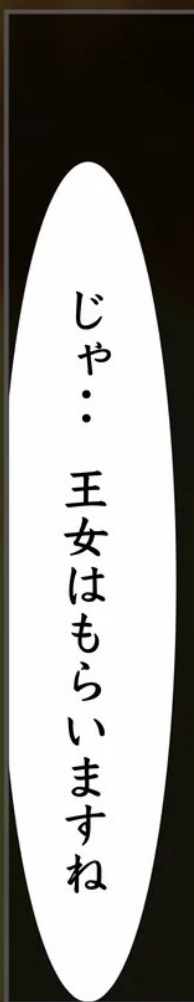


わたくし1人で

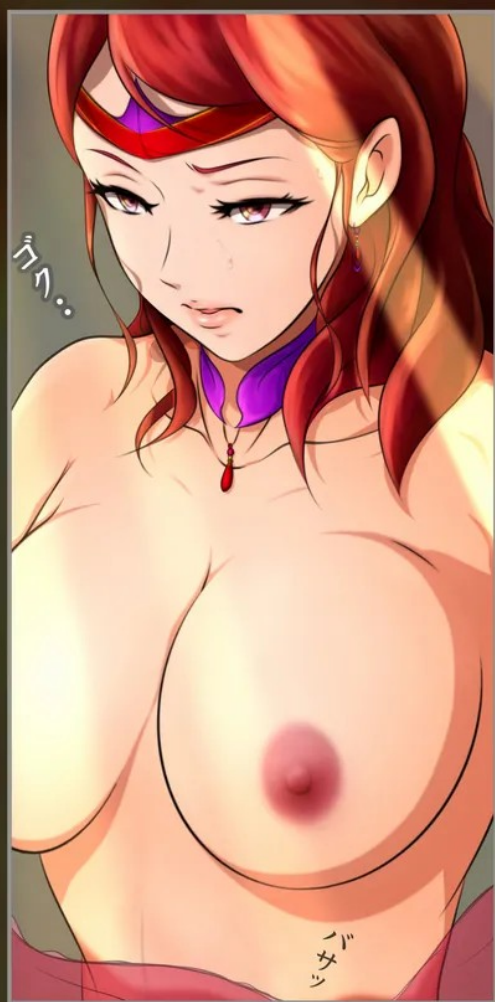
済む事なら…



!

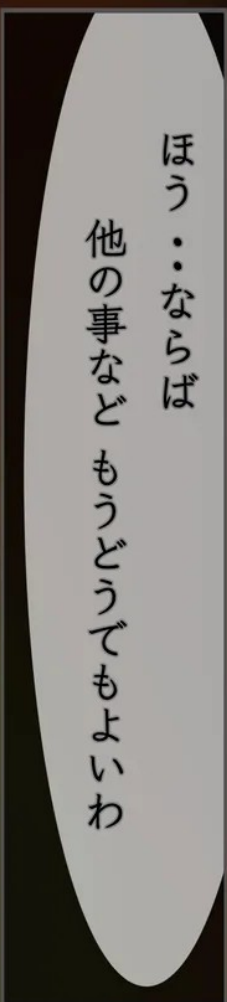


じゃ・王女はもらいますね



ぐん..

ハダッ



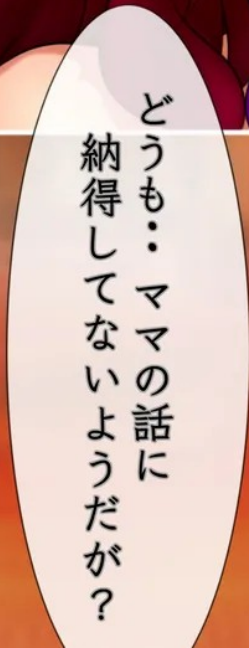
ほう・ならば  
他の事などもうどうでもよいわ



短剣など持ち出しおって・



構わんが・お嬢ちゃんの方は



どうも・ママの話に  
納得してないようだが？



マリル・

他にも身体に隠してないか：

服の中を：

今そこで見せてもらわんと

信用出来んなあ：

じい...

ギリ...

まだ、そういう：事は  
教えておりませんので

私がお2人を：

待っ：



ローズ隊長：

私  
：



ハッ

…  
私も、



…  
王妃護衛隊です

ハッ  
ッ

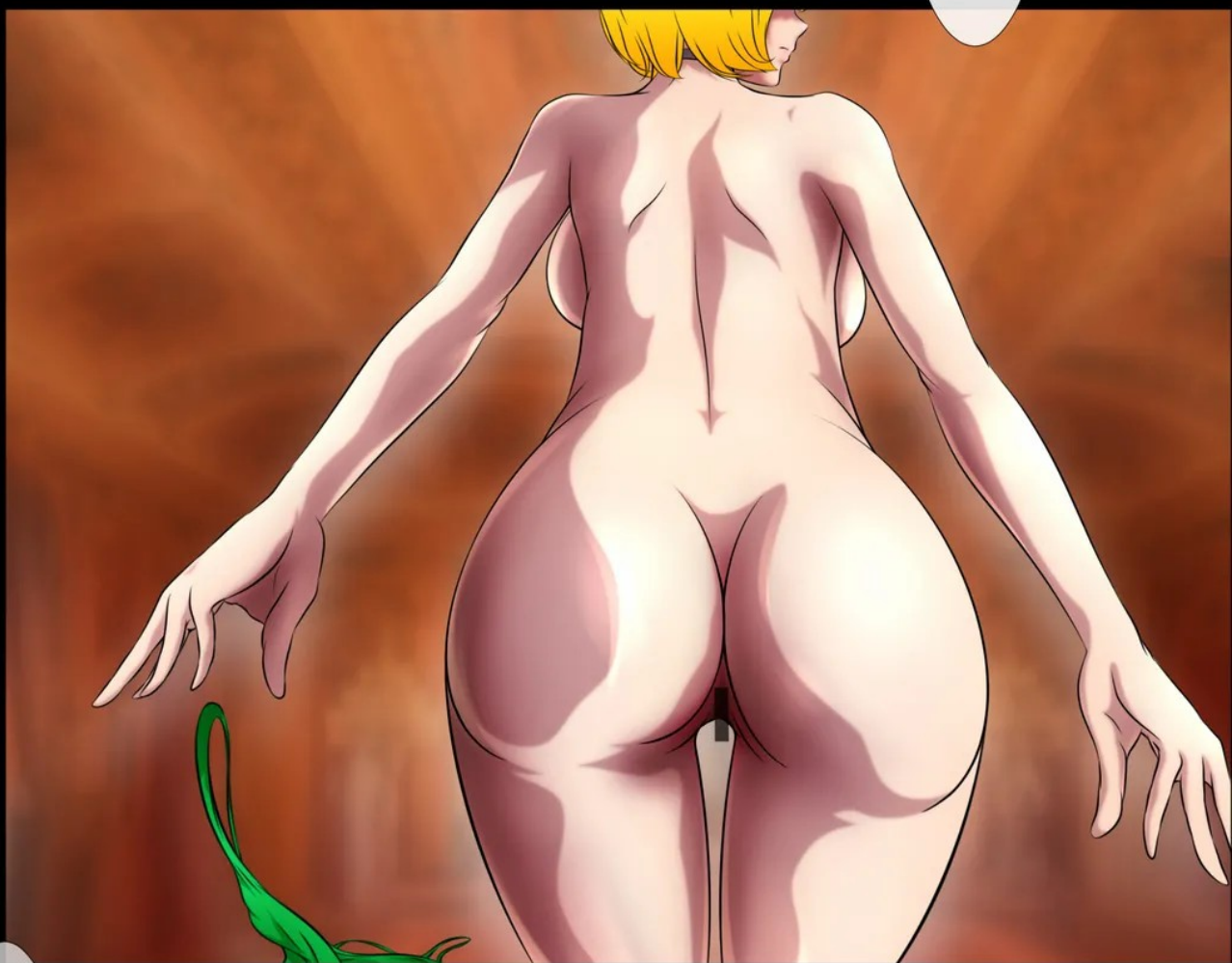


アム...

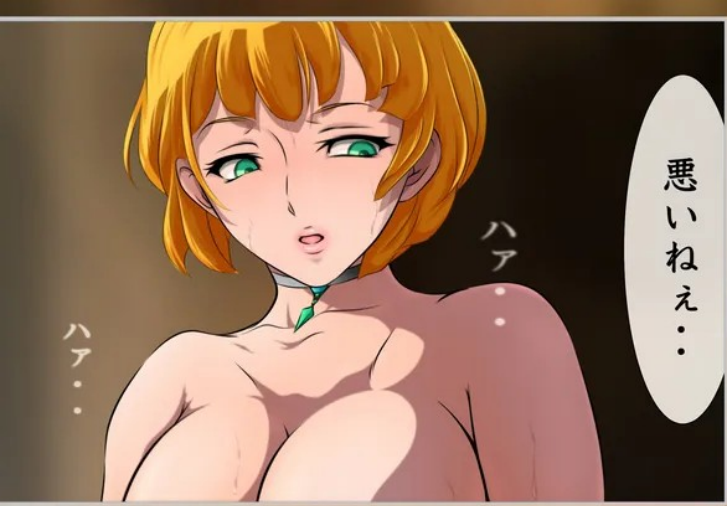
持っていない

もう何も

侵略をやめ：



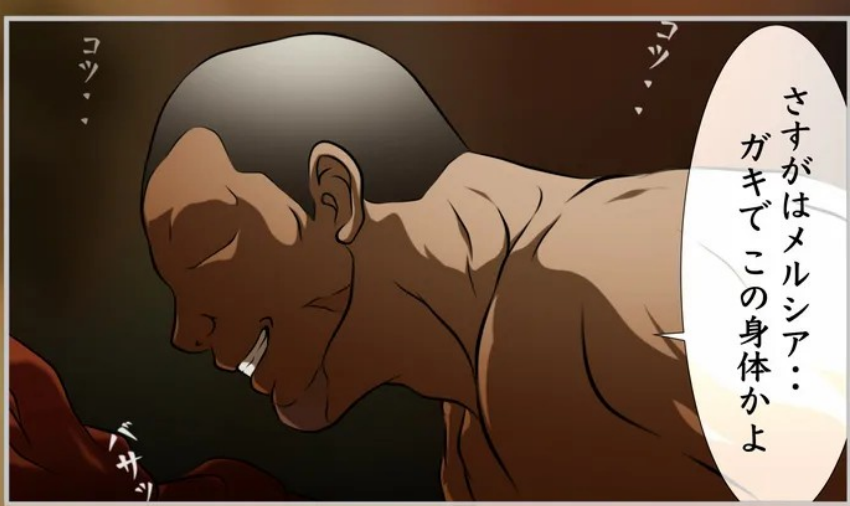
：  
やめて下さい  
：



ハア...

ハア

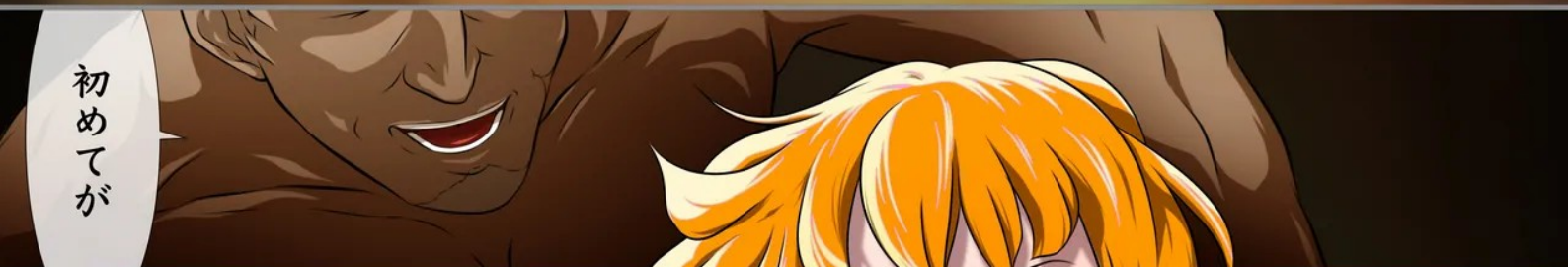
悪いねえ...



コッ...

ハア...

さすがはメルシア：  
ガキでこの身体かよ



初めてが



白馬の王子様じゃなくて

トキッ

ヒッ!!



武器なしでこの大男には勝てない：

：もし王女じゃないと分かったら：

いや：

ハイ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

ギシ...

あッ！

トサ...

うう...

きつとバレない... きつと... チャンスは来る...



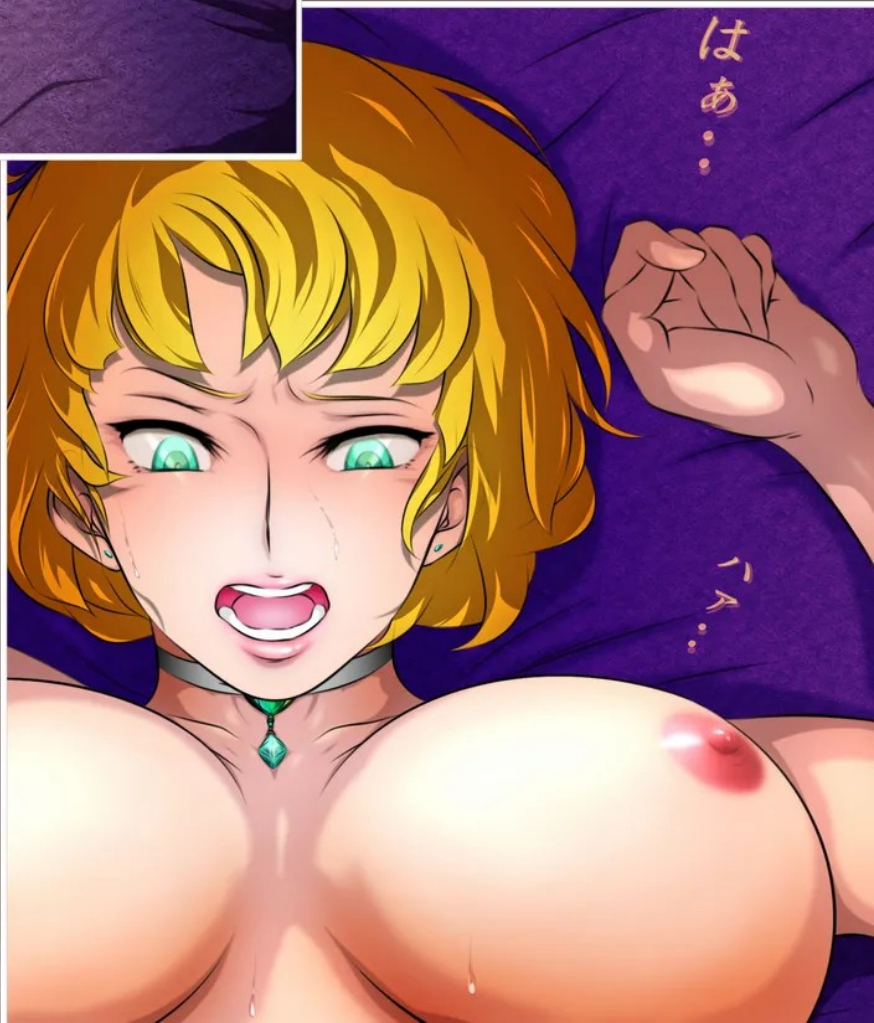
今はこの場を...

とにかく耐える事だけに

集中して...



はあ...



...悔しい...

こいつは絶対に

私が殺してや...

あッ!

ひっ...



トッ!!?

嘘っ...

シユキョッ



うあぁ...

ピロピロ...

胸とかを触るんじや...

や...



なんで!?

えっ...

あっ...

そっは...

オケ...



何...これ...

あ...

プあぁっ...

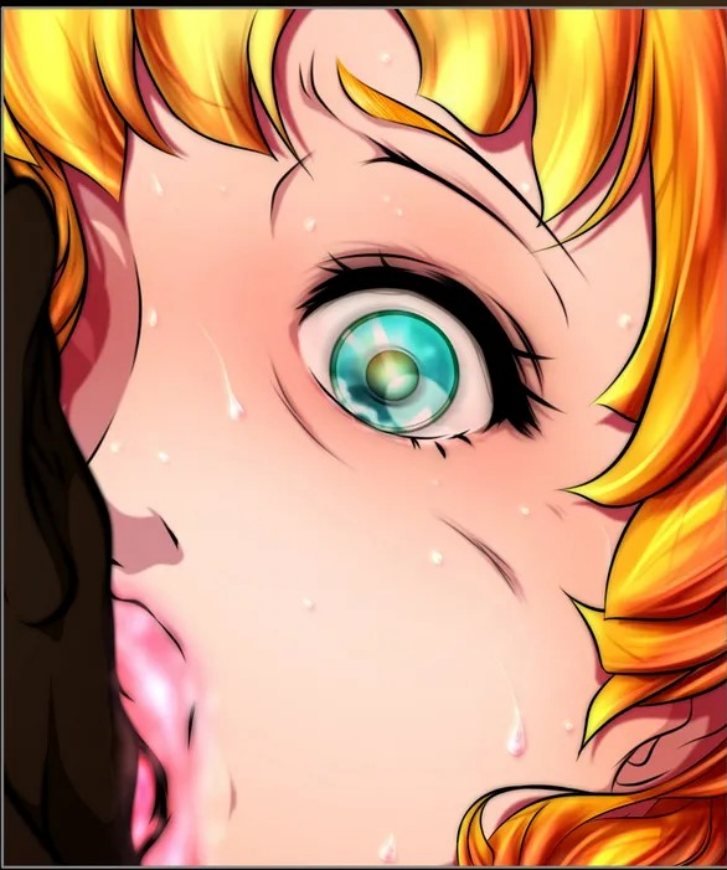
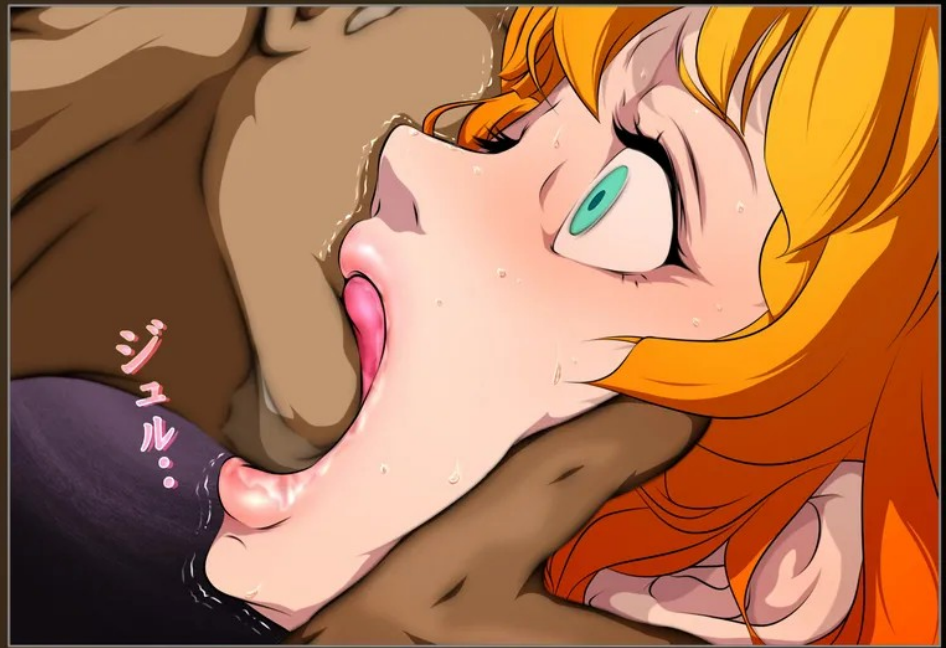
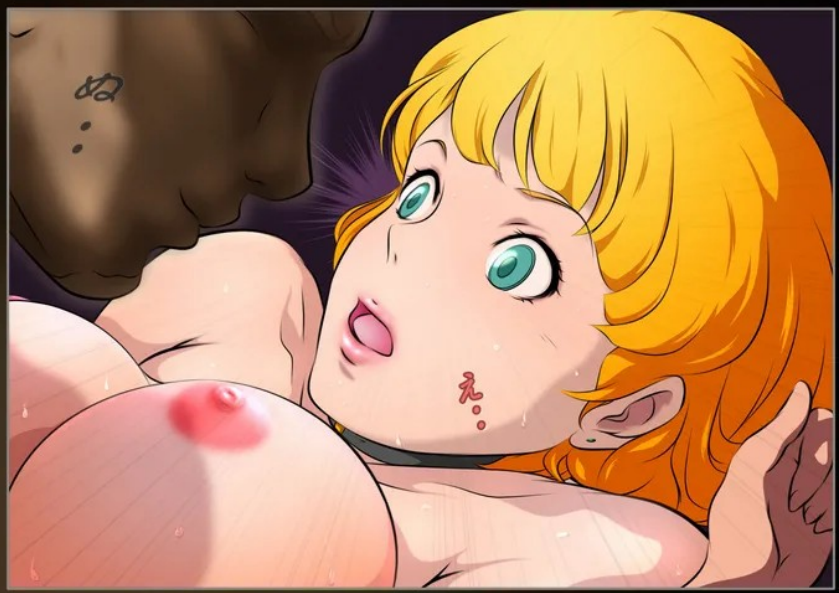
ほあ...

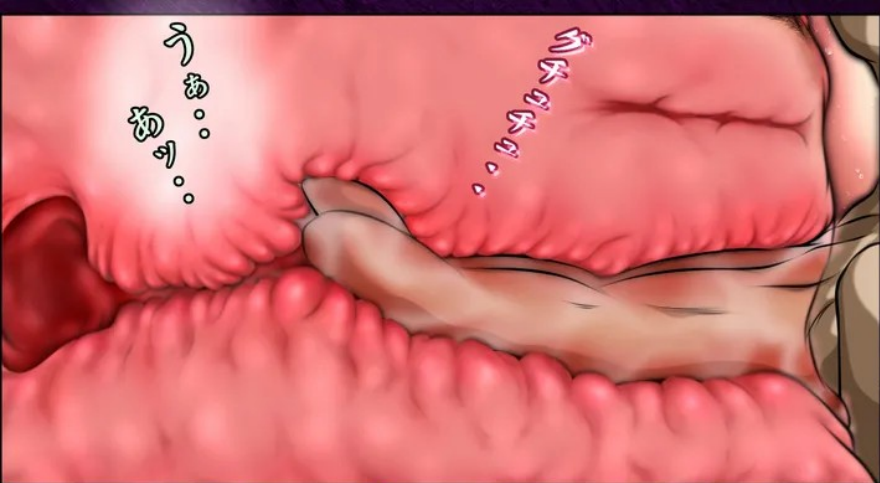
ひゃッ

さあ...

ピロピロ...

チュル...







ダメツ...

あああツ

これ...は...

あ...

クチュ...

ジュチュ...

ハメ...

意識がまとまらない...



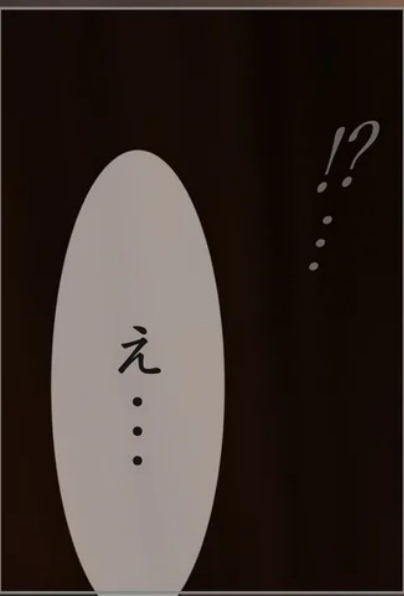
バレてるぞ...

ボン...



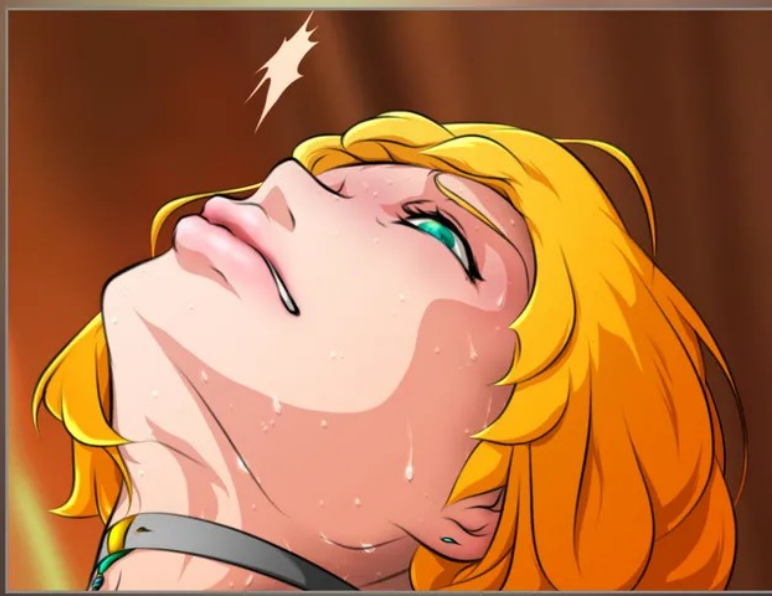
どうか意識を保って...

コイツを殺る隙を見逃しては...



え...

!?



ニセモノちゃん...



何を言ってる...

まあ聞けよ...

気付いているのは俺だけだ...

...このまま大人しく俺に従うなら



...2人だけの秘密だ...

...このまま隠し通せばいい

俺達の足止めが狙いだろ？

それとも隣に気付かれる前に

俺を何とかするか？

兵士に隙は見せんぞ？

え...

...さあどうする？

続けたいなら、  
舌を出せ...

え...



え...ど...

どう...

分かりません隊長...

次はどうすれば...

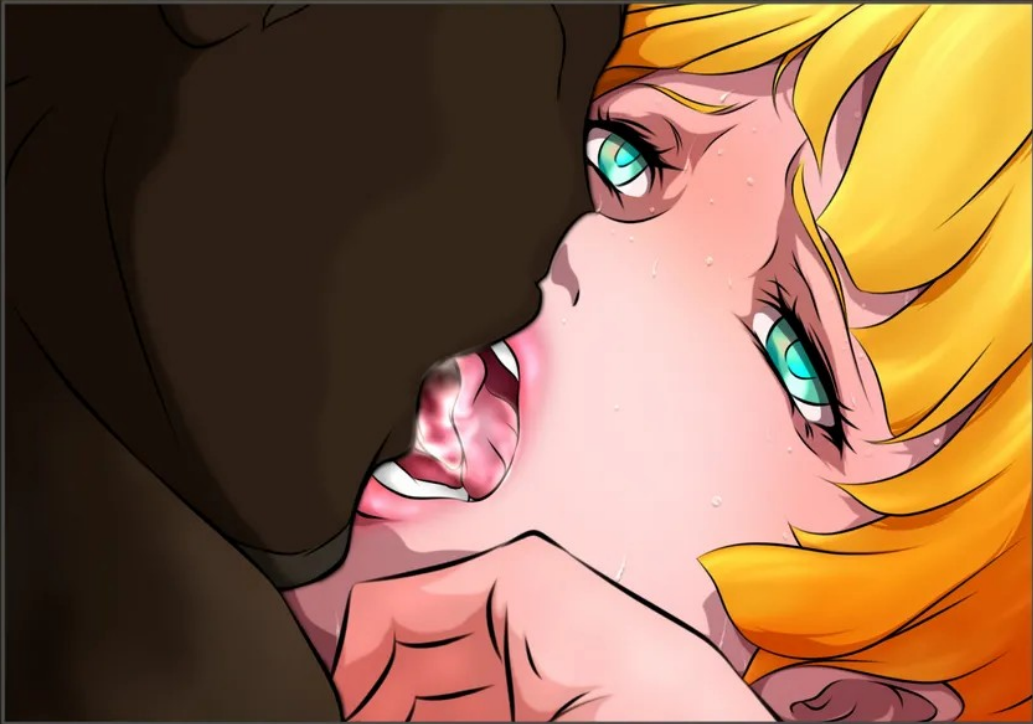
指示を...

...わたし、  
頭悪いから...



身体がすごく熱くて…

力も全然入らない…



もう何も…

ジュル…

分からないです…



すみません…

でも何かすごく…

すーっ…

グッ

の ぬるぬる

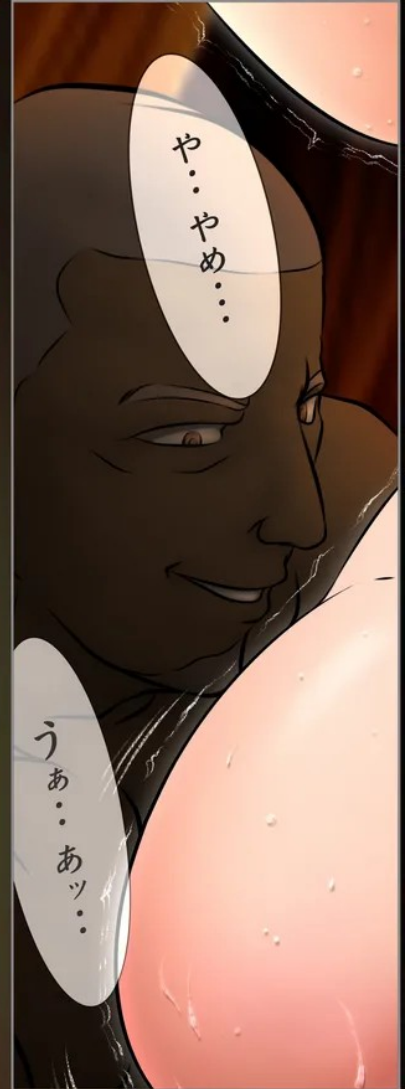




あ  
あ  
つ  
ツ

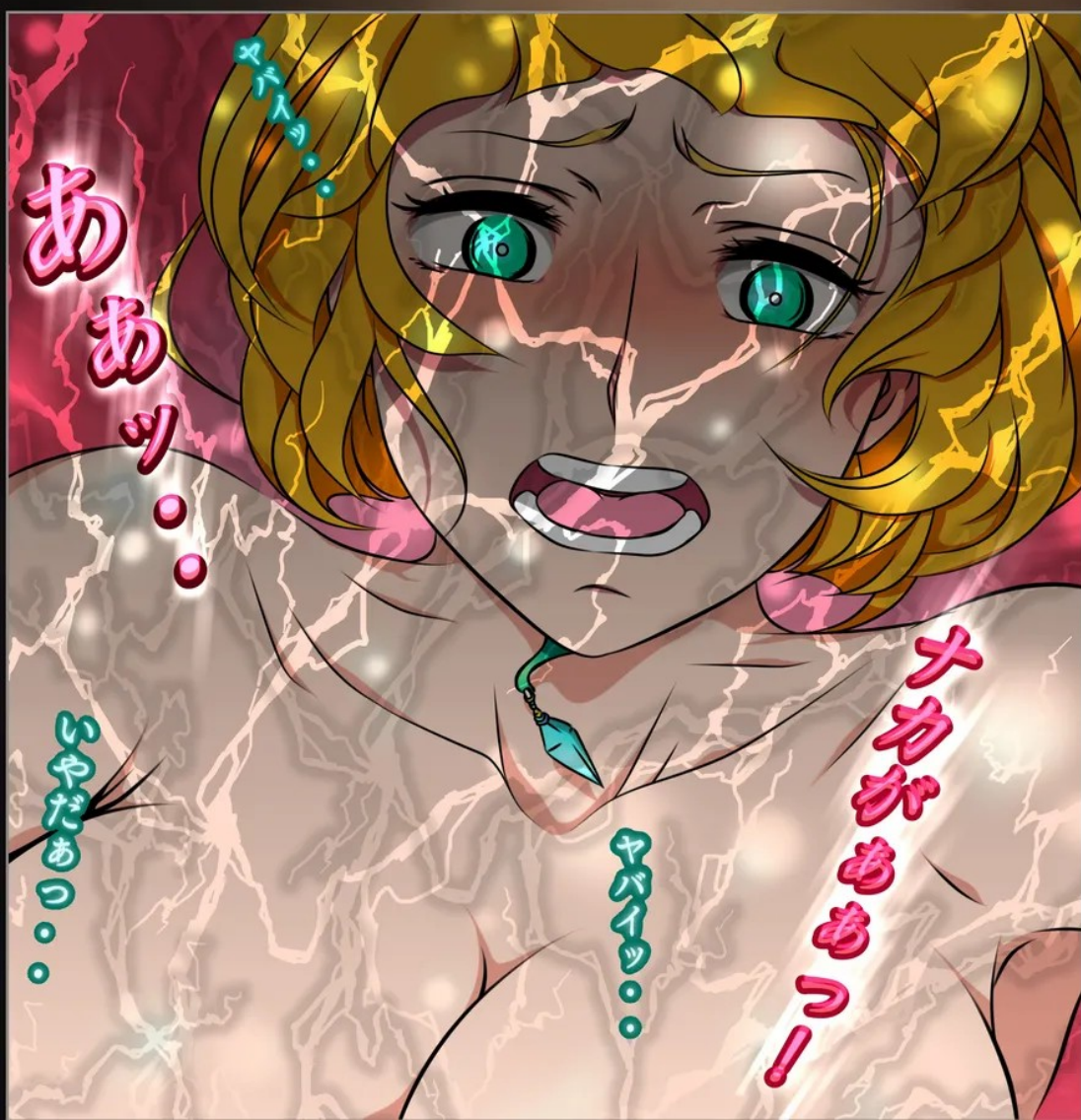
い  
い  
の  
の  
ん  
ん  
い

待  
つ  
ツ



や  
..  
や  
め  
..

う  
あ  
..  
あ  
ッ  
..

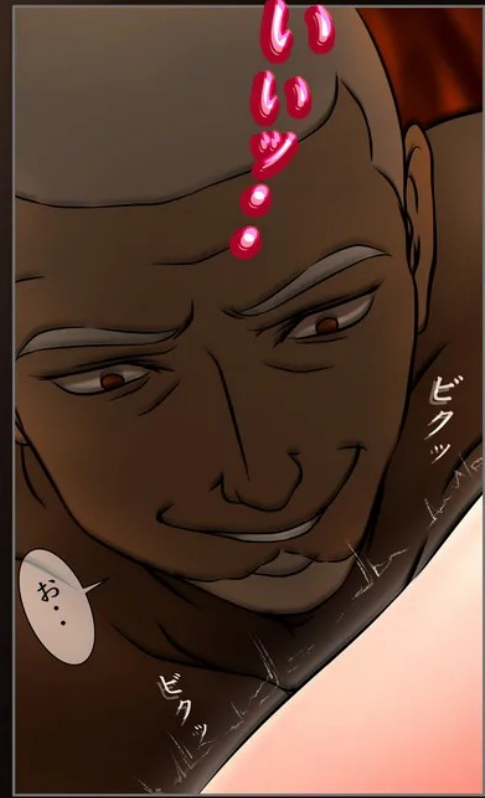


あ  
あ  
ッ  
..  
..

い  
や  
だ  
あ  
つ  
..  
..

や  
バ  
イ  
ッ  
..

ナ  
カ  
が  
あ  
あ  
つ  
!



知  
ら  
な  
い  
い  
い  
ッ  
..  
..

お  
..

じ  
り  
ッ

ビ  
ク  
ッ



う  
あ

.....

う

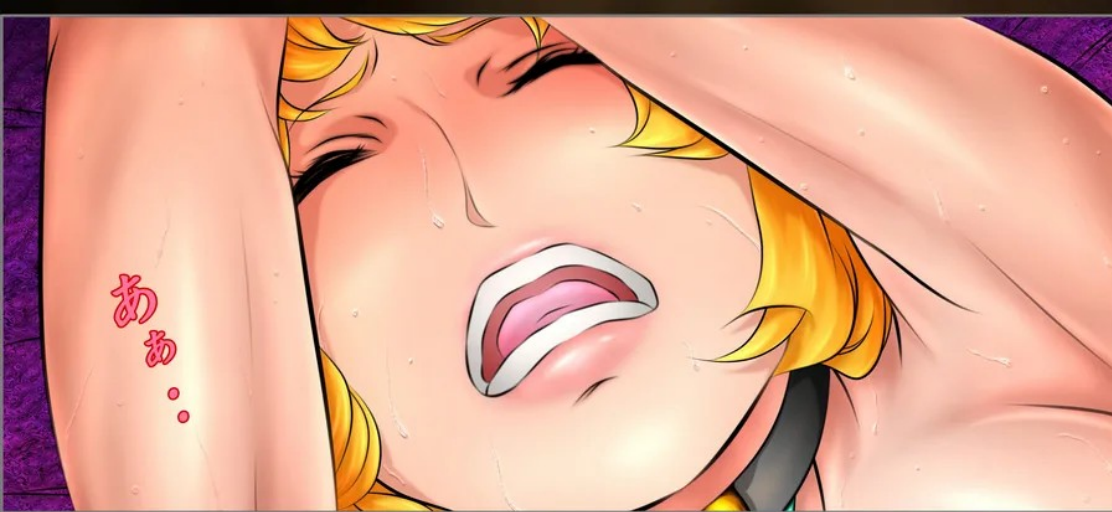
.....

うわー

—







ああ...



ローズ隊長...

。。。もう。。。

たち...

...

ギン...



あ...

いや...

ギン...

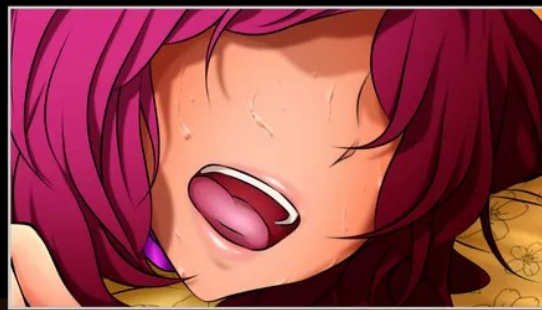
申し訳ありません...

王妃様...



あおッ!!

アッ



あの声は  
マリル…？



カーテンで見えない…



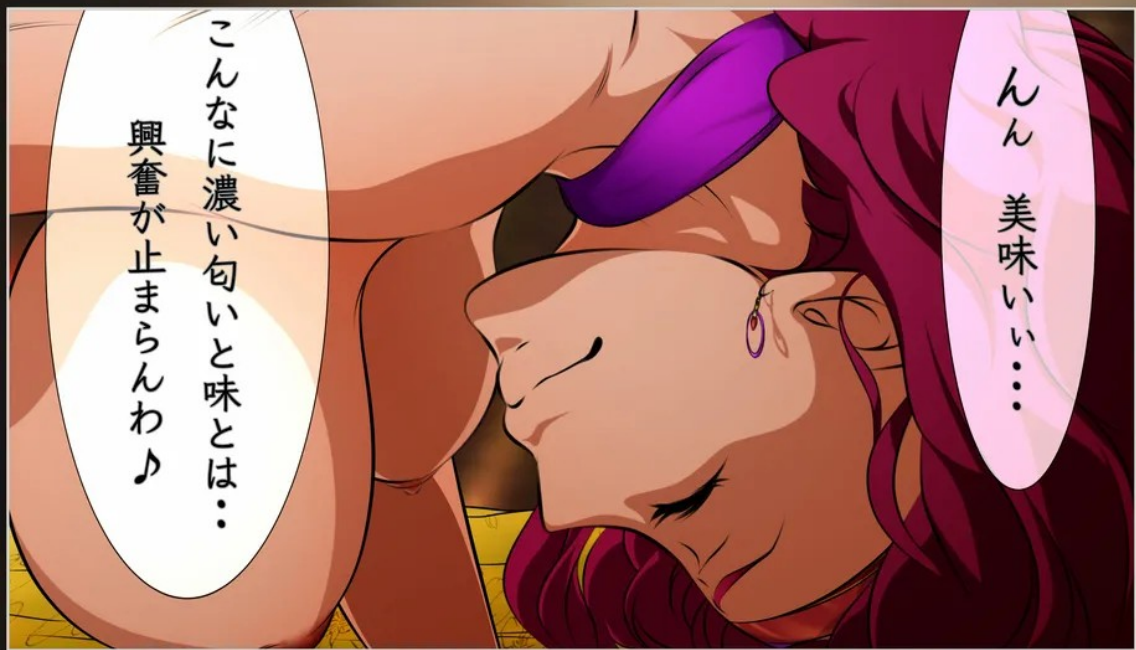
キシ…





いつまで…

これを…  
されるのですか…



んん 美味しい…

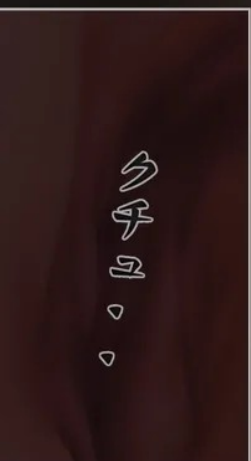
こんなに濃い匂いと味とは…  
興奮が止まらんわ♪



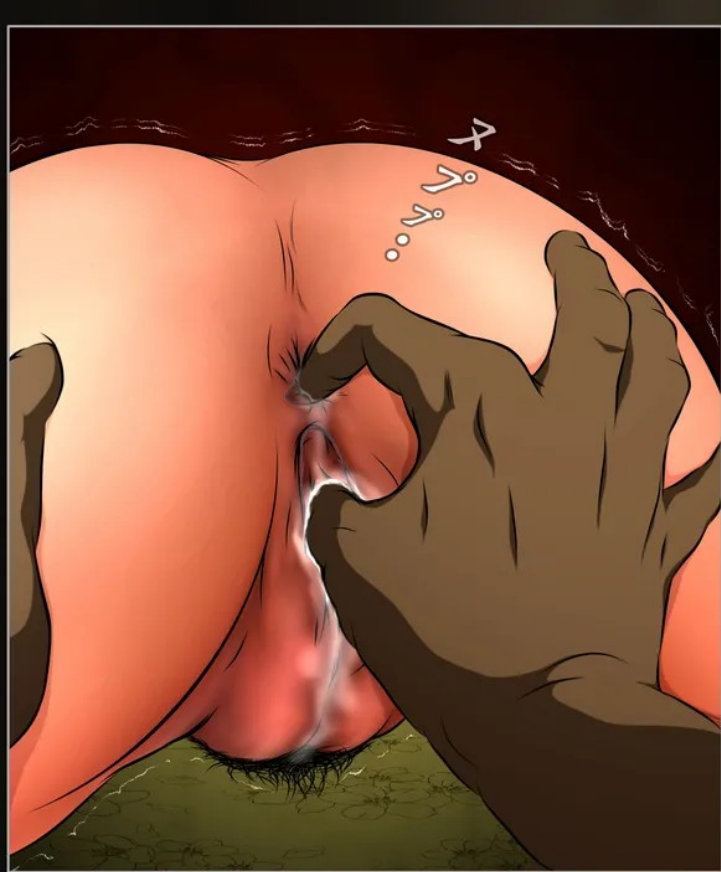
あッ!

ハム…

ビクッ



そうだな  
そろそろ…



裂けてしまうぞ

しっかり  
慣らしておかんと...

おアア...

まさか...

嘘...

そつちはお尻の...

あぁッ!!

く...

うぐ...

ここで時間を稼ぐ… あきらめない…



これまで王妃を守ってきたように…

私も、マリルも…



マリル：

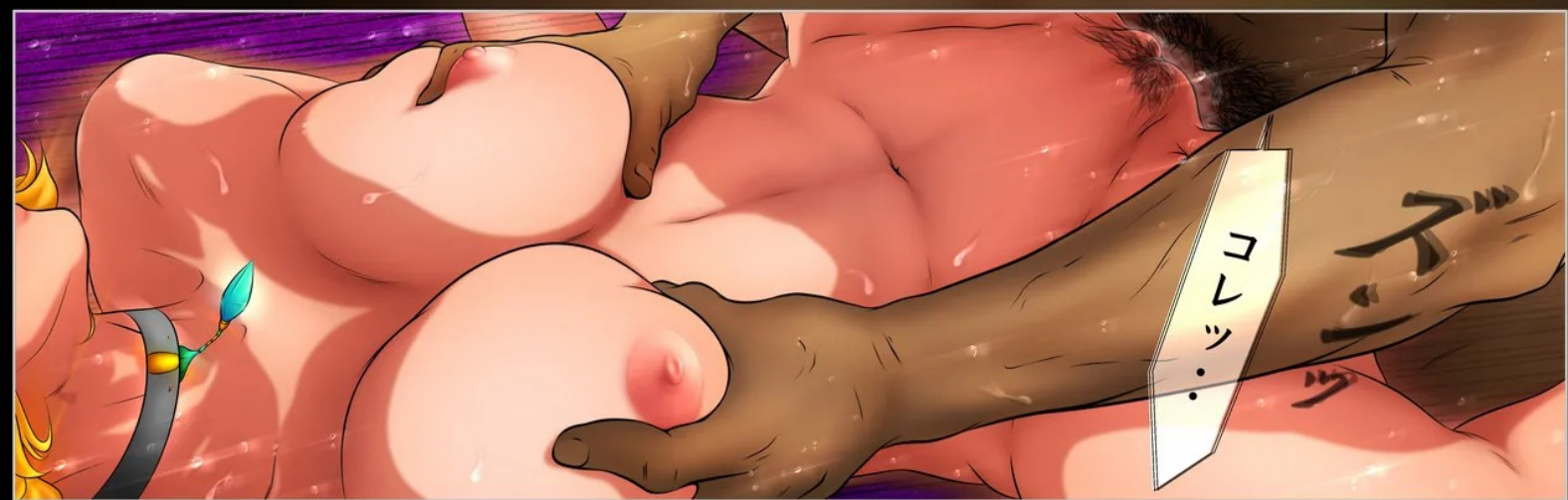
こいつらに見せてやるんだ：



メルシア王国 王妃護衛隊の意地と誇りを：







おいおい...

正常位  
コレだけで

あ...  
アッ...

バテんなよ...

エリート兵士も  
前のアマゾネス族長も...

すぐ壊れちゃう...

あッ  
待ってッ

族長のとろける膣は良かったなあ：

おっおっ！

きむすめ  
生娘兵士はさすがの締めりだ



しっかり

はら  
孕ませてやるよ...

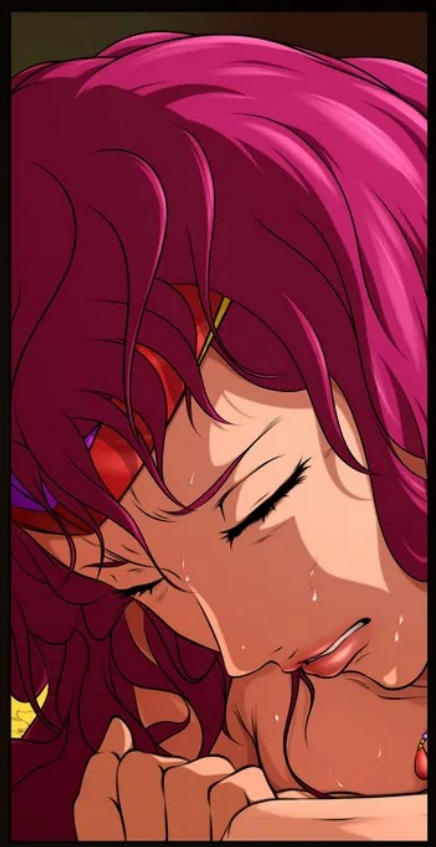


お前も

あがっ！



なんとかか…



このままバレないように時間を稼いで…

ハア…

ハア…

なんとかか...



このままバレないように時間を稼いで...

ハイ...

そのあとまず私が...

油断したこの指揮官の首を締め上げて、



あいつ...

ア...

なんとかか...

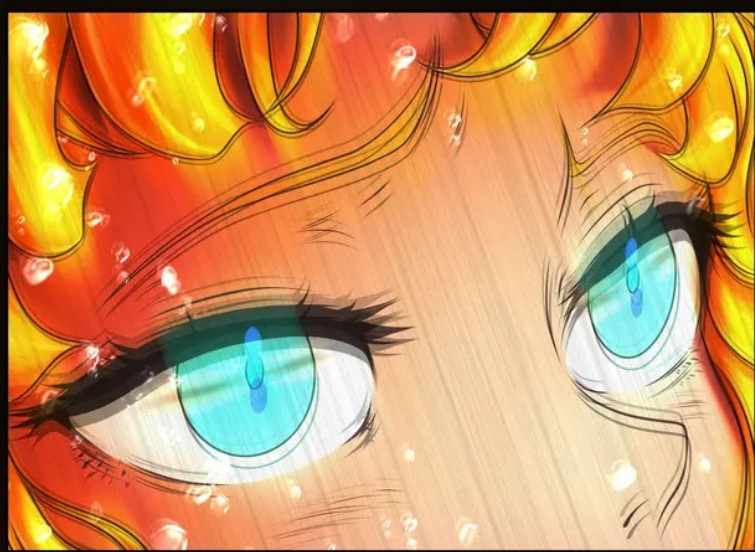


このままバレないように時間を稼いで...

ハイ...

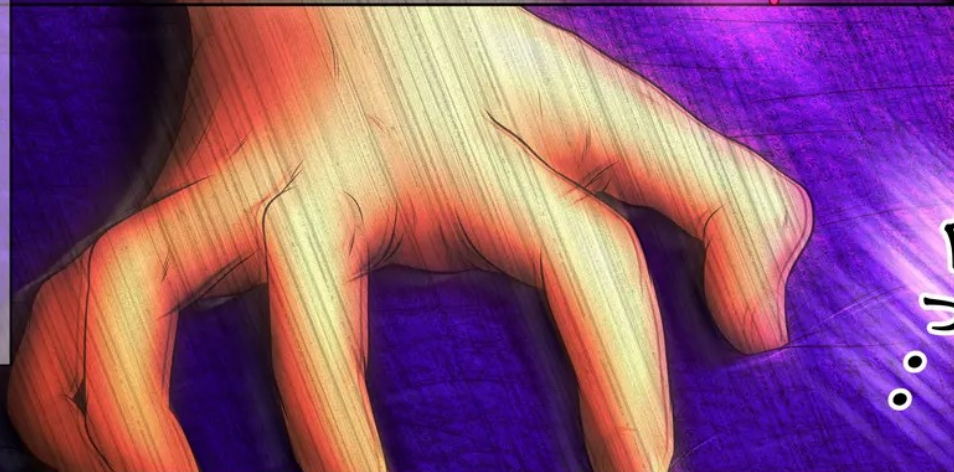
そのあとまず私が...

油断したこの指揮官の首を締め上げて、



あいつ...

ハッ...



フッ...

次に床の短剣を拾ったら...

マリルの大男を2人で倒す...



なんとか

それでこの侵略を終わらせる・・・

2人で勝つぞマリルっ

ローズ隊長…

出すぞ…

私はもう…

ナカがいいよな？

ダメみたいです…

はっ

はっ…





あゝ  
あゝあゝ  
あゝあゝ  
!!

ド  
キ  
キ  
キ

ド  
キ  
キ  
キ

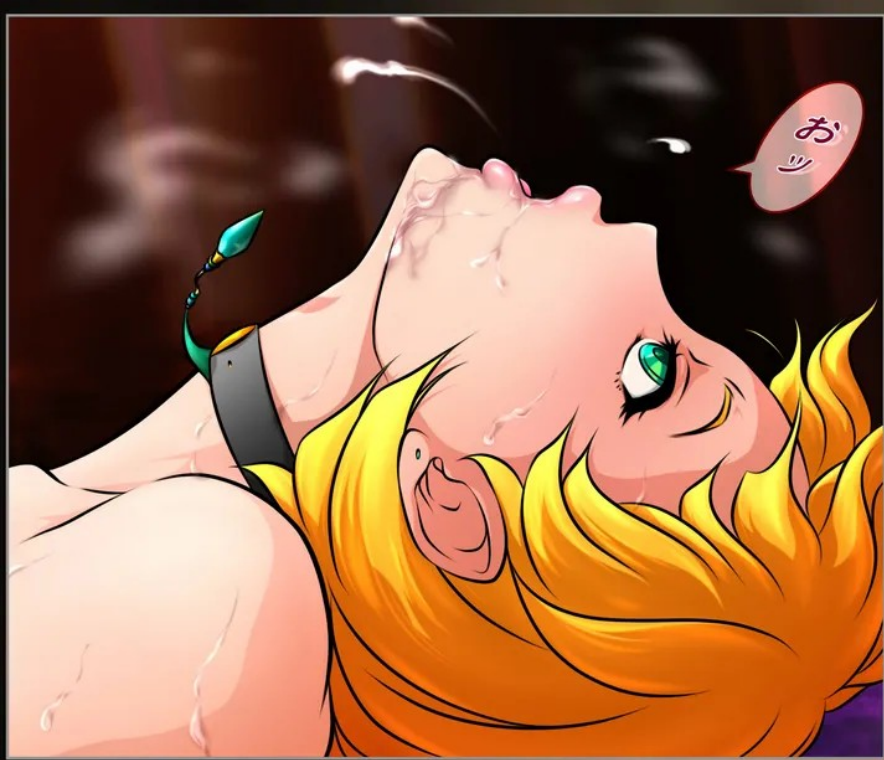
ド  
キ  
キ  
キ



いっ!!

アッ!!

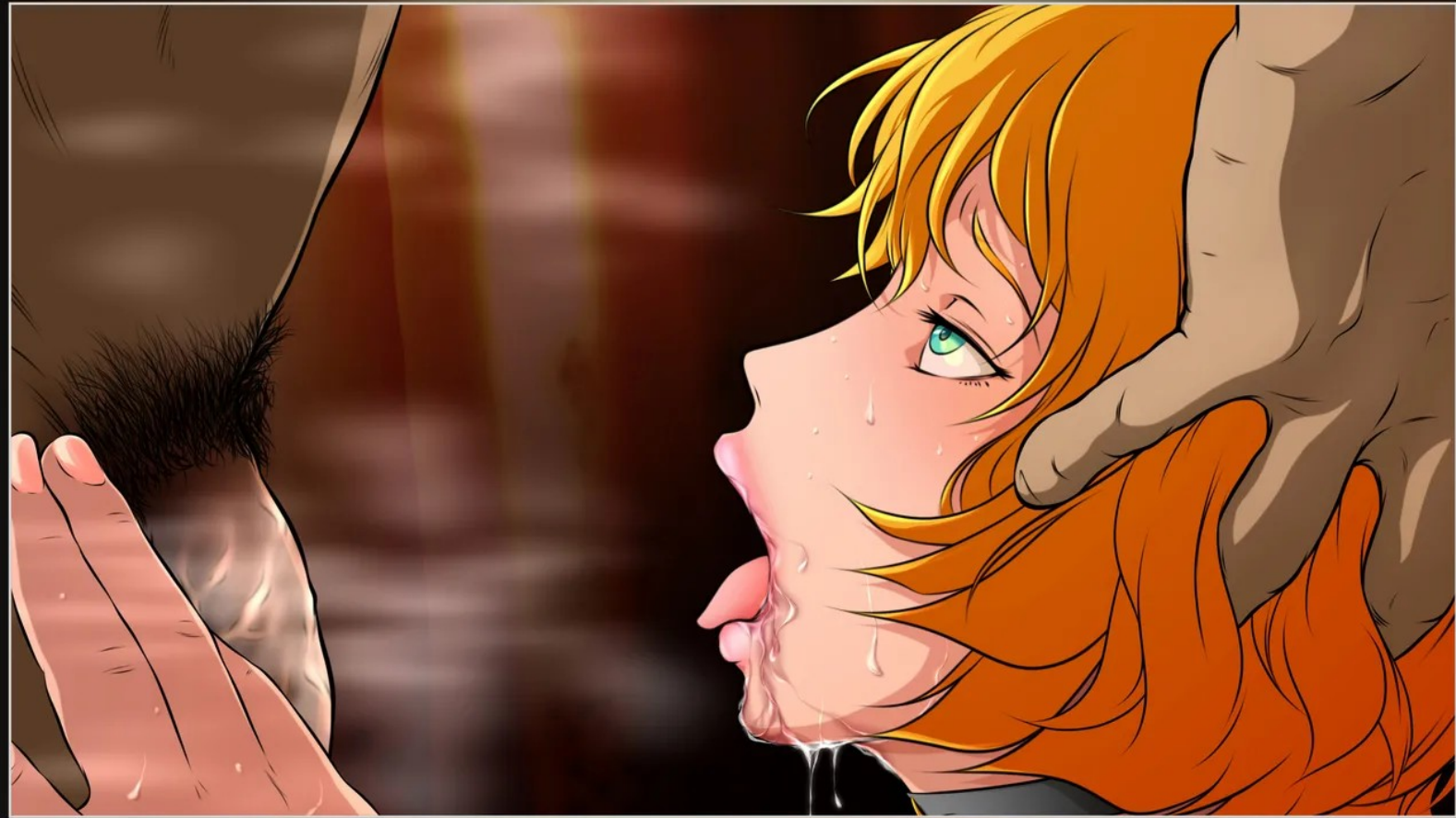
アッ!!



大丈夫なはずだ...



マリルなら...



王妃もゆっくり逃げれるだろう...

レロ...  
シィン...

時間稼ぎが出来て...



良かったなあ、望み通り...



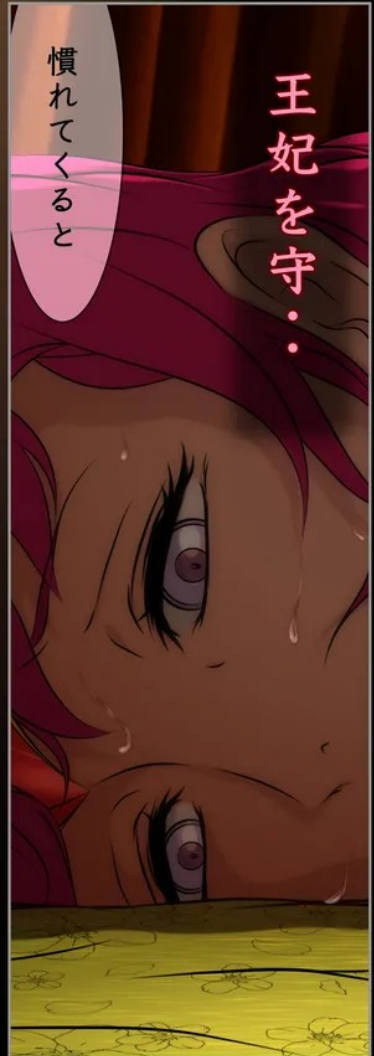
私も必ず耐えて…

どうだ…  
特別製だぞ



王妃を守…

慣れてくると



…  
なに…  
あれ…

この宝石達がヤミつきになる





第4章へ続く

読んで頂き 本当にありがとうございます  
ございました

ご意見・ご要望あれば頂けると嬉しいです

特に、第1章は下手ですみません・

1章の時は、まだペンタブ(電子ペン)とか持ってなくて

全部PCのマウスだけで作成したんです。

もっともっと絵もストーリーも上手くなるよう

努力していきます。

第4章以降も、キャラ増やしすぎて

だんだん私自身混乱してきましたが頑張ります。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします



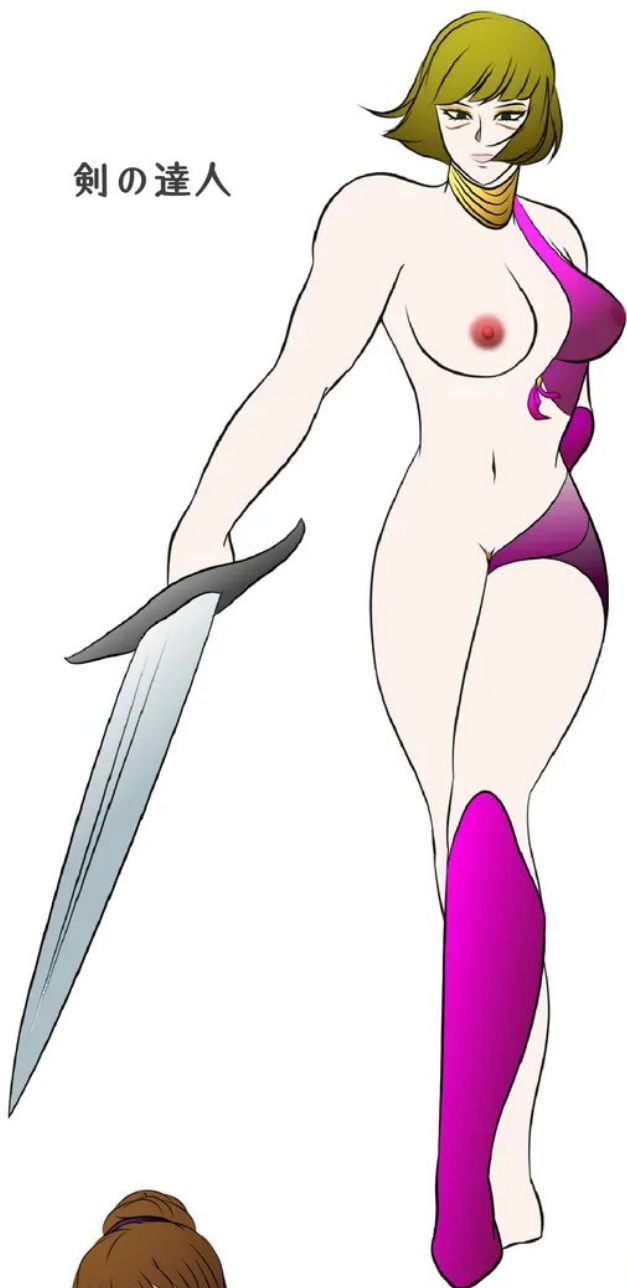
はゆ (Hatano Yuki)



アマゾネス図鑑

おまけ

剣の達人



怪力



族長



優しい

